

(様式第 10)

群大医総 2 第 6 3 号
令和元年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

開設者名 国立大学
学 長 平塚 浩

群馬大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 30 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
氏 名	国立大学法人群馬大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

群馬大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒371-8511 群馬県前橋市昭和町三丁目 39 番 15 号 電話 (027) 220-7111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科	2 消化器内科
⑤ 神経内科	③ 循環器内科
9 感染症内科	6 血液内科
	7 内分泌内科
	10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	4 腎臓内科
	8 代謝内科
	11 リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	⑦	・	無
外科と組み合わせた診療科名			
1呼吸器外科	2消化器外科	3乳腺外科	4心臓外科
5血管外科	⑥心臓血管外科	7内分泌外科	8小児外科
診療実績			

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	7産婦人科
⑧産科	⑨婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	⑦	・	無
歯科と組み合わせた診療科名			
1小児歯科	2矯正歯科	③口腔外科	
歯科の診療体制			

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1臨床検査科	2リハビリテーション科	3病理診断科	4形成外科	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21			

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	2床	9床	0床	680床	731床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	287人	337人	495.0人	看 護 補 助 者	53人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	10人	22人	24.6人	理 学 療 法 士	14人	臨床検査技師	72人
薬 剤 師	51人	0人	51.0人	作 業 療 法 士	5人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視 能 訓 練 士	8人	そ の 他	0人
助 産 師	29人	0人	29.0人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	763人	40人	792.6人	臨 床 工 学 士	17人	医療社会事業従事者	7人
准 看 護 師	0人	1人	0.2人	栄 養 士	0人	その他の技術員	12人
歯科衛生士	3人	0人	3.0人	歯 科 技 工 士	2人	事 務 職 員	266人
管理栄養士	11人	0人	11.0人	診療放射線技師	51人	その他の職員	3人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含まないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	64人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	33人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精 神 科 専 門 医	7人	放 射 線 科 専 門 医	23人
小 児 科 専 門 医	18人	脳神経外科専門医	10人
皮 膚 科 専 門 医	10人	整 形 外 科 専 門 医	13人
泌尿器科専門医	11人	麻 酔 科 専 門 医	25人
産婦人科専門医	13人	救 急 科 専 門 医	5人
		合 計	251人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (田村 遵一) 任命年月日 平成27年4月1日

医療業務安全管理委員会委員長 (平成27年4月から現在)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	598.5人	12.2 人	610.8 人
1 日当たり平均外来患者数	1,825.1人	84.4 人	1,909.5 人
1 日当たり平均調剤数			324剤
必要医師数			166人
必要歯科医師数			6人
必要薬剤師数			20人
必要（准）看護師数			369人

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備	概 要
集中治療室	1,245 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	病 床 数 17 床 人工呼吸装置 (有)・無 その他の救急蘇生装置 (有)・無	心 電 計 (有)・無 心細動除去装置 (有)・無 ペースメーカー (有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 358 m ² [移動式の場合] 台 数 台			病床数 8 床
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床 積 62 m ² [共用室の場合] 共用する室名			
化学検査室	621 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 臨床化学・免疫自動検査システム 血液検査システム	
細菌検査室	83 m ²	〃	(主な設備) 細菌同定感受性総合検査システム	
病理検査室	116 m ²	鉄骨造	(主な設備) 自動標本染色装置、ミクロトーム他	
病理解剖室	186 m ²	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 解剖台 他	
研 究 室	12,748m ²	鉄筋コン クリート	(主な設備) パソコン、実験台、遠心分離器、書籍棚他	
講 義 室	1,365 m ²	〃	室数 3 室	収容定員 509 人
図 書 室	2,413 m ²	〃	室数 2 室	蔵 書 数 131,183冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率		94. 1%	逆紹介率	103. 2%
算出根拠	A：紹介患者の数	15, 514 人		
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	20, 868 人		
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	3, 512 人		
	D：初診の患者の数	20, 202 人		

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者 団体連合会理 事長 一般社団法人 グループ・ネク サス・ジャパン 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共 済組合連合会 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務 所弁護士		法律に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
児玉 安司	新星総合法律 事務所 弁護士/医師		医療に係る安全 管理に関する識 見及び法律に関 する識見を有す る者	有・ ☒ 無	1
須藤 英仁	群馬県医師会 長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
谷 修一	国際医療福祉 大学名誉学長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
堀田 知光	国立がん研究 センター名誉 総長	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレ ビ朝日ホール ディングス代 表取締役社長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける者の立場か ら意見を述べる ことができる者	有・ ☒ 無	2

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有・無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有・無
公表の方法 大学ホームページに掲載 http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouinkansa	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
神経変性疾患の遺伝子診断	2人
重粒子線治療	122人
ウイルスに起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	29人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染症疾患に対する迅速診断(PCR法)	4人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
上皮性卵巣がん・卵管がん・原発性腹膜がんに対するパクリタキセル毎週静脈内投与併用カルボプラチン3週毎腹腔内投与	0人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法〔成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る)〕	0人
重粒子線治療 肝細胞がん(初発のものであって、肝切除術、肝移植術、エタノールの局所注入、マイクロ波凝固法又はラジオ波焼灼(しやく)療法による治療が困難であり、かつChild-Pugh分類による点数が七点未満のものに限る。)	5人
重粒子線治療 非小細胞肺癌(ステージがⅠ期であって、肺の末梢に位置するものであり、かつ肺切除術が困難なものに限る。)	2人
ゲムシタビン静脈内投与及び重粒子線治療の併用療法 膵臓がん(遠隔転移しておらず、かつ、TNM分類がT4のものに限る。)	1人
重粒子線治療 直腸がん(術後に再発したものであって、骨盤内に限局するものに限る。)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	精索静脈瘤手術時におけるICG蛍光造影の有用性	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 精索静脈瘤に対する顕微鏡下低位精索結紮術時にICG蛍光血管造影を併用することで、微細な動脈の温存が可能になる。			
医療技術名	大動脈ステントグラフト治療	取扱患者数	49人
当該医療技術の概要 胸部・腹部大動脈瘤に対して開胸・開腹を加えずに血管内で治療が可能			
医療技術名	弁形成術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 弁膜症に対して人工弁を使わずに形成のみで治療を行う。(ワーファリンなどの投薬が不要となる。)			
医療技術名	オフポンプ冠動脈バイパス	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 狭心症に対する治療で人工心肺を使用せず、拍動下で行う治療。			
医療技術名	強皮症に伴うレノイー現象に対して、ボツリヌス毒素を局所注入する治療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 強皮症に伴うレノイー現象に対する治療法として、ボツリヌス毒を手掌に局所注入する。			
医療技術名	遺伝性腫瘍症候群患者における遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 遺伝性腫瘍症候群(MEN1,MEN2,家族性大腸腺腫症,リンチ症候群,フォン・ヒッペル・リンドウ病など)における遺伝カウンセリングの実施と、遺伝子検査の実施			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	56	疾患名	患者数
1 球腎性筋萎縮症	10	56	ベーチェット病	69
2 筋萎縮性側索硬化症	28	57	特発性拡張型心筋症	33
3 腎性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	10
4 原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5 進行性核上性麻痺	10	60	再生不良性貧血	51
6 パーキンソン病	149	61	自己免疫性溶血性貧血	15
7 大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	6
8 ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	64
9 神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10 シャルコー・マリー・トウース病	3	65	原発性免疫不全症候群	5
11 重症筋無力症	136	66	IgA 腎症	36
12 先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	8
13 多発性硬化症／視神経脊髄炎	130	68	黄色靱帯骨化症	1
14 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	28	69	後縦靱帯骨化症	11
15 封入体筋炎	7	70	広範脊柱管狭窄症	1
16 クロウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腸骨頭壊死症	0
17 多系統萎縮症	4	72	下垂体性ADH分泌異常症	0
18 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	73	73	下垂体性TSH分泌亢進症	2
19 ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	0
20 副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	10
21 ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22 もやもや病	28	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	0
23 プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	0
24 亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	8
25 進行性多巣性白質脳症	1	80	甲状腺ホルモン不応症	4
26 HTLV-1関連脊髄症	3	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27 特発性基底核石灰化症	1	82	先天性副腎低形成症	0
28 全身性アミロイドーシス	3	83	アジソン病	4
29 ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	139
30 遠位型ミオパチー	1	85	特発性間質性肺炎	40
31 ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	45
32 自己食空胞性ミオパチー	1	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33 シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓性肺高血圧症	6
34 神経線維腫症	1	89	リンパ管筋腫症	8
35 天疱瘡	9	90	網膜色素変性症	4
36 表皮水疱症	6	91	バッド・キアリ症候群	0
37 膿疱性乾癬(汎発型)	7	92	特発性門脈圧亢進症	0
38 スティーヴンス・ジョンソン症候群	1	93	原発性胆汁性肝硬変	211
39 中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	5
40 高血圧性動脈炎	2	95	自己免疫性肝炎	30
41 巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	92
42 結節性多発動脈炎	19	97	潰瘍性大腸炎	131
43 顕微鏡的多発血管炎	51	98	好酸球性消化管疾患	20
44 多発血管炎性肉芽腫症	32	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	13	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46 悪性関節リウマチ	10	101	腸管神経節細胞減少症	0
47 バージャー病	31	102	ルビンシュタイン・ティビ症候群	0
48 原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49 全身性エリテマトーデス	598	104	コステロ症候群	0
50 皮膚筋炎／多発性筋炎	196	105	チャージ症候群	0
51 全身性強皮症	145	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52 混合性結合組織病	99	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53 シェーグレン症候群	496	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54 成人スチル病	15	109	非典型性溶血性尿毒症症候群	0
55 再発性多発軟骨炎	5	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
111 先天性ミオパチー	0 161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112 マリネスコ・シェーグレン症候群	0 162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	2
113 筋ジストロフィー	4 163	特発性後天性全身性無汗症	0
114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0 164	眼皮膚白皮症	0
115 遺伝性周期性四肢麻痺	0 165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116 アトピー性脊髄炎	0 166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117 脊髄空洞症	5 167	マルファン症候群	2
118 脊髄髄膜瘤	0 168	エーラス・ダンロス症候群	1
119 アイザックス症候群	1 169	メンケス病	0
120 遺伝性ジストニア	0 170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121 神経フェリチン症	0 171	ウィルソン病	0
122 脳表ヘモジデリン沈着症	0 172	低ホスファターゼ症	0
123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0 173	VATER症候群	0
124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0 174	那須・ハコラ病	0
125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0 175	ウィーバー症候群	0
126 ベリー症候群	0 176	コフィン・ローリー症候群	0
127 前頭側頭葉変性症	0 177	有馬症候群	0
128 ビッカースタッフ脳幹脳炎	0 178	モワット・ウィルソン症候群	0
129 痙攣重積型(二相性)急性脳症	0 179	ウィリアムズ症候群	0
130 先天性無痛無汗症	0 180	ATR-X症候群	0
131 アレキサンダー病	0 181	クルーゾン症候群	0
132 先天性核上性球麻痺	0 182	アペール症候群	0
133 メビウス症候群	0 183	ファイファー症候群	0
134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0 184	アントレー・ビクスラー症候群	0
135 アイカルティ症候群	0 185	コフィン・シリス症候群	0
136 片側巨脳症	0 186	ロスマンド・トムソン症候群	0
137 限局性皮質異形成	0 187	歌舞伎症候群	0
138 神経細胞移動異常症	0 188	多脾症候群	0
139 先天性大脳白質形成不全症	0 189	無脾症候群	0
140 ドラベ症候群	0 190	鰓耳腎症候群	0
141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0 191	ウェルナー症候群	3
142 ミオクロニー欠神てんかん	0 192	コケイン症候群	0
143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0 193	ブラダー・ウィリ症候群	4
144 レノックス・ガストー症候群	0 194	ソトス症候群	0
145 ウエスト症候群	0 195	ヌーナン症候群	2
146 大田原症候群	0 196	ヤング・シンブソン症候群	0
147 早期ミオクロニー脳症	0 197	1p36欠失症候群	0
148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0 198	4p欠失症候群	0
149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0 199	5p欠失症候群	0
150 環状20番染色体症候群	0 200	第14番染色体父親性ダイノミー症候群	0
151 ラスムッセン脳炎	0 201	アンジェルマン症候群	0
152 PCDH19関連症候群	0 202	スミス・マギニス症候群	0
153 難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0 203	22q11.2欠失症候群	0
154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0 204	エマヌエル症候群	0
155 ランドウ・クレフナー症候群	0 205	脆弱X症候群関連疾患	0
156 レット症候群	0 206	脆弱X症候群	0
157 スタージ・ウェーバー症候群	0 207	総動脈幹遺残症	0
158 結節性硬化症	8 208	修正大血管転位症	0
159 色素性乾皮症	0 209	完全大血管転位症	0
160 先天性魚鱗癬	0 210	単心室症	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾 患 名		患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイトミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫瘍性腫瘍	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	58	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	5
222	一次性ネフローゼ症候群	102	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1	271	強直性脊椎炎	11
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	1
227	オスラー病	4	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	1	277	リンパ管腫瘍/ゴーム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	1	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノナー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	3	283	後天性赤芽球病	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クローンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	1
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性肺炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	12
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	2
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	9

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

疾患名	患者数	疾患名	患者数
307 カナバン病	0	319 セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308 進行性白質脳症	0	320 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309 進行性ミオクロームステんかん	0	321 非ケトーシス型高グリシン血症	0
310 先天異常症候群	0	322 β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311 先天性三尖弁狭窄症	0	323 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312 先天性僧帽弁狭窄症	0	324 メチルグルタコン酸尿症	0
313 先天性肺静脈狭窄症	0	325 遺伝性自己炎症疾患	0
314 左肺動脈右肺動脈起始症	0	326 大理石骨病	0
315 ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	0	327 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316 カルニチン回路異常症	0	328 前眼部形成異常	0
317 三頭酵素欠損症	0	329 無虹彩症	0
318 シトリン欠損症	0	330 先天性気管狭窄症	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・病棟薬剤業務実施加算2
・歯科外来診療環境体制加算2	・データ提出加算
・歯科診療特別対応連携加算	・入退院支援加算
・精神病棟入院基本料	・認知症ケア加算
・特定機能病院入院基本料	・精神疾患診療体制加算
・超急性期脳卒中加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・診療録管理体制加算1	・特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算	・脳卒中ケアユニット入院医療管理料
・看護職員夜間配置加算	・新生児特定集中治療室管理料2
・看護補助加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・療養環境加算	・一類感染症患者入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料2
・無菌治療室管理加算1	・短期滞在手術等基本料1
・緩和ケア診療加算	・短期滞在手術等基本料2
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・抗菌薬適正使用支援加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・呼吸ケアチーム加算	・
・後発医薬品使用体制加算3	・
・病棟薬剤業務実施加算1	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・遺伝学的検査
・糖尿病合併症管理料	・骨髓微小残存病変量測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・がん患者指導管理料イ	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・がん患者指導管理料ロ	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・がん患者指導管理料ハ	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・外来緩和ケア管理料	・国際標準検査管理加算
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・遺伝カウンセリング加算
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・糖尿病透析予防指導管理料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・ヘッドアップティルト試験
・外来放射線照射診療料	・人工臓臓検査
・ニコチン依存症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん治療連携計画策定料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・ハイリスク妊産婦連携指導料1	・光トポグラフィー
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・神経学的検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・補聴器適合検査
・薬剤管理指導料	・ロービジョン検査判断料
・医療機器安全管理料1	・コンタクトレンズ検査料1
・医療機器安全管理料2	・小児食物アレルギー負荷検査
・医療機器安全管理料(歯科)	・内服・点滴誘発試験
・総合医療管理加算(歯科疾患管理料)	・画像診断管理加算1
・歯科治療時医療管理料	・画像診断管理加算3
・在宅総合医療管理加算(歯科疾患在宅療養管理料)	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影、ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影又は乳房用ポジトロン断層撮影
・在宅患者歯科治療時医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算	・冠動脈CT撮影加算

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓MRI撮影加算	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・乳房MRI撮影加算	・羊膜移植術
・小児鎮静下MRI撮影加算	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・頭部MRI撮影加算	・網膜再建術
・抗悪性腫瘍処方管理加算	・人工中耳植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・外来化学療法加算1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・無菌製剤処理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳がんセンチネルリンパ節加算1又は乳がんセンチネルリンパ節加算2を算定する場合に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・運動器リハビリテーション料(I)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的中隔心筋焼灼術
・リンパ浮腫複合的治療料	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)
・認知療法・認知行動療法1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・医療保護入院等診療料	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・人工腎臓	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・導入期加算2及び腎代替療法実績加算	・バルーン閉塞下経静脈的塞栓術
・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・人工膵臓療法	・腹腔鏡下肝切除術
・手術用顕微鏡加算	・生体部分肝移植術
・口腔粘膜処置	・腹腔鏡下膵腫瘍摘出術及び腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・有床義歯修理及び有床義歯内面適合法の歯科技工加算	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・皮膚悪性腫瘍切除術(センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・腫瘍脊椎骨全摘術	・同種死体腎移植術

施設基準の種類	施設基準の種類
・生体腎移植術	・粒子線治療
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・粒子線治療適応判定加算
・腹腔鏡下腔式子宮全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	・粒子線治療医学管理加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・画像誘導密封小線源治療加算
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮頸がんに限る。)	・保険医療機関間の連携による病理診断
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・病理診断管理加算1
・輸血管理料Ⅰ	・口腔病理診断管理加算2
・輸血適正使用加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・貯血式自己血輸血管理体制加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・歯周組織再生誘導手術	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・口腔粘膜血管腫凝固術	
・レーザー機器加算の施設基準	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療加算(IGRT)	
・体外照射呼吸性移動対策加算	
・定位放射線治療	
・定位放射線治療呼吸性移動対策加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・粒子線治療(前立腺)	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	12回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 26例 / 剖検率 8.3%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
線維芽細胞が産生する新規液性因子の肝胆膵癌悪性化の機序解明と革新的治療の開発	調 憲	肝胆膵外科	9,230,000	補委	日本学術振興会
新規エネルギー代謝マーカーとしてのリガ蛋白リパーゼ	常川 勝彦	検査部	1,170,000	補委	日本学術振興会
スフィンゴシン1リン酸とその受容体に着目した末梢血幹細胞動員の総合的理解	横濱 章彦	血液内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
早老症の皮膚硬化、脂肪萎縮の病態解明と新規治療法の開発を目指して	遠藤 雪恵	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
分子PET画像とCSF分析による脳アミロイドアンギオパチーからタウ病理発生の解明	池田 将樹	脳神経内科	2,210,000	補委	日本学術振興会
抗IL-6受容体抗体を利用した光免疫療法による関節リウマチの新規治療法の開発	中島 崇仁	核医学科	1,560,000	補委	日本学術振興会
カーボンナノチューブを利用した自己集合型・腫瘍特異的超音波造影剤の開発	対馬 義人	核医学科	1,560,000	補委	日本学術振興会
腎単核貪食細胞による腎尿細管間質障害機序の解明	廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
急性期褥瘡の病態解明と新規治療の開発:間葉系幹細胞由来エクソソームに着眼して	茂木 精一郎	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
重症難治性喘息への挑戦 抗炎症性脂質メディエーターの作用解析から創薬へ向けた研究	久田 剛志	呼吸器・アレルギー内科	1,820,000	補委	日本学術振興会
気道炎症におけるプロトン感知性受容体OGRIを介した新規吸入薬開発への挑戦	齋藤 悠	呼吸器・アレルギー内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
周術期アナフィラキシー確定診断法の開発:抗原特異的IgEと尿中マーカーの測定	高澤 知規	集中治療部	1,560,000	補委	日本学術振興会
局所麻酔徐放薬を用いた疼痛管理	戸部 賢	集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
麻酔薬・鎮痛薬の神経発達に及ぼす影響の検討	麻生 知寿	麻酔科蘇生科	2,860,000	補委	日本学術振興会

小計14

新たな血管収縮薬投与法の確立を目指した心肺停止状態におけるRAA系動態の解明	大嶋 清宏	救・総医療センター(救急)	1,300,000	補委	日本学術振興会
pH感受性G蛋白関連受容体OGR1の肺腎関連における役割の解明	池内 秀和	腎臓・リウマチ内科	3,120,000	補委	日本学術振興会
頭蓋咽頭腫における病理学的サブタイプと糖代謝に関する検討	登坂 雅彦	脳神経外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
光免疫療法を利用した関節リウマチに対する生物学的製剤治療効果の増強	米本 由木夫	整形外科	1,690,000	補委	日本学術振興会
抗サバイビン光抗体療法と重粒子免疫療法による抵抗性前立腺癌治療の基礎的研究	小池 秀和	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
循環不全モデルマウスにおける前庭小脳機能障害が前庭神経核に及ぼす影響の解明	高安 幸弘	耳鼻咽喉科	1,040,000	補委	日本学術振興会
イリジウム錯体を用いた脈絡毛細管板のりん光寿命マップ	秋山 英雄	眼科	2,210,000	補委	日本学術振興会
サルコペニアに関与する新たな調節因子の解明	山田 英二郎	内分泌糖尿病内科	1,950,000	補委	日本学術振興会
新規Galectin-3阻害剤による肝線維化制御の革新的治療開発に関する基礎研究	石井 範洋	肝胆膵外科	2,080,000	補委	日本学術振興会
重粒子線照射に対する細胞応答反応における二次的バイスタンダー効果の解析	神沼 拓也	重粒子線医学センター	2,210,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症患者の消化管運動障害の病態解明	栗林 志行	消化器・肝臓内科	2,600,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症の皮膚硬化に対するボツリヌス毒素の治療効果と機序の解明	関口 明子	皮膚科	1,690,000	補委	日本学術振興会
ヒストンメチル化酵素MLLの膵β細胞におけるエピジェネティックな機能解析	吉野 聡	内分泌糖尿病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
膵臓β細胞脱分化の改善を目指した2型糖尿病の新たな治療戦略	石田 恵美	内分泌糖尿病内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
肝癌関連線維芽細胞を標的とした革新的治療法の開発	塚越 真梨子	肝胆膵外科	2,210,000	補委	日本学術振興会
肝細胞癌、膵癌に対する新規Galectin-3阻害薬を用いた治療戦略	五十嵐 隆通	肝胆膵外科	1,040,000	補委	日本学術振興会

小計16

抗うつ薬による内因性鎮痛機能の回復作用と遷延性術後痛に対する有用性の検討	太田 浄	麻酔科蘇生科	1,430,000	補委	日本学術振興会
神経障害性痛治療薬併用効果機序の解明ーガバペンチノイドの効果増強を目指してー	廣木 忠直	麻酔科蘇生科	1,300,000	補委	日本学術振興会
HDAC阻害薬を用いた内因性鎮痛機構の改善による遷延性術後痛の新規予防法の開発	室岡 由紀恵	集中治療部	1,950,000	補委	日本学術振興会
痛みの遷延化に関与する内因性鎮痛機構の可塑的变化の解明	須藤 貴史	麻酔科蘇生科	2,470,000	補委	日本学術振興会
術後高次脳機能障害(POCD)と酸化ストレス:抗酸化物質は治療薬になるか	堀内 辰男	麻酔科蘇生科	2,080,000	補委	日本学術振興会
間葉系幹細胞及び培養上清を用いた新規重症熱傷治療法の開発	澤田 悠輔	救・総医療センター(救急)	1,300,000	補委	日本学術振興会
オートファジーに着目した前立腺癌細胞におけるスタチンの抗腫瘍効果メカニズムの解明	宮澤 慶行	泌尿器科	1,040,000	補委	日本学術振興会
乳房再建を頭部MRIを用いた脳科学的アプローチで評価する臨床研究	牧口 貴哉	形成外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
甲状腺ホルモンの動脈硬化進展抑制機構の解明	村上 正巳	検査部	4,810,000	補委	日本学術振興会
脊椎の発生・維持・変性の分子機序解明を目指した統合的研究	筑田 博隆	整形外科	6,240,000	補委	日本学術振興会
肝内胆管癌の発がんにおける核内受容体CARの役割	柿崎 暁	消化器・肝臓内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
血中小粒子高比重LDL(sdLDL)生成におけるリパーゼの役割	木村 孝穂	検査部	1,950,000	補委	日本学術振興会
DNA修復に着眼した多発性骨髄腫の耐性機構の解明と新たな治療法の開発	齋藤 貴之	血液内科	1,040,000	補委	日本学術振興会
マイクロPIXEによる骨髄異形成症候群の血球中微量元素の動態解明と新規治療薬開発	村上 博和	血液内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
抗癌剤治療前の客観的高齢者評価法の開発	滝沢 牧子	血液内科	650,000	補委	日本学術振興会
肝前駆細胞を介した胆管上皮細胞増殖、胆管形成、再生における核内受容体CARの役割	山崎 勇一	消化器・肝臓内科	1,300,000	補委	日本学術振興会

小計16

特異及び多彩な表現型を呈する遺伝性不整脈疾患の分子病態の解明と治療法の確立	中島 忠	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
肥太心の代謝リモデリングのメカニズムと病態生理的意義の解明	磯 達也	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
脂肪酸組成バランスとストレス誘導因子Sestrinによる肺気腫化・線維化の解明	横山 知行	循環器内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
Wntシグナル伝達経路を標的とした非小細胞肺癌に対する新規治療法の開発	砂長 則明	呼吸器・アレルギー内科	1,300,000	補委	日本学術振興会
癌抑制遺伝子MEN1の非腫瘍組織(骨格筋)における新規機能の解明	小澤 厚志	内分泌糖尿病内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
全身性強皮症の皮膚硬化・血管障害の病態における細胞外ATPの役割	石川 治	皮膚科	1,820,000	補委	日本学術振興会
NK細胞活性化によるアトピー性皮膚炎の新規治療の開発	岸 史子	皮膚科	1,170,000	補委	日本学術振興会
進行がんに対する免疫放射線治療開発のためのトランスレーショナル研究	吉本 由哉	重粒子線医学センター	1,690,000	補委	日本学術振興会
がん微小環境における免疫抑制解除を目指した癌・間質細胞共通標的分子の探索	近松 一朗	耳鼻咽喉科	1,950,000	補委	日本学術振興会
肺癌における直鎖状ユビキチン関連シグナルの機能解析と臨床応用	中澤 世識	呼吸器外科	2,600,000	補委	日本学術振興会
神経障害性疼痛により減弱した内因性鎮痛経路回復機構の解明	松岡 宏晃	集中治療部	1,300,000	補委	日本学術振興会
ヒト3次元尿細管誘導モデルの確立とその制御因子の同定	中里見 征央	腎臓・リウマチ内科	2,080,000	補委	日本学術振興会
放射線治療後DNA損傷応答による腫瘍細胞PD-L1発現誘導の分子機構の解明	佐藤 浩央	放射線科	1,950,000	補委	日本学術振興会
再発肝細胞癌に対する重粒子線治療のQOL評価と費用対効果に関する研究	渋谷 圭	放射線科	1,300,000	補委	日本学術振興会
去勢抵抗性前立腺癌における放射線抵抗性の機序の解明	河村 英将	放射線科	1,950,000	補委	日本学術振興会
膵癌における線維化の抑制と癌関連線維芽細胞を標的とした新規治療薬の開発	新木 健一郎	肝胆膵外科	1,950,000	補委	日本学術振興会

小計16

周術期アナフィラキシー原因薬物の新しい同定法確立:好塩基球刺激試験を用いて	折原 雅紀	麻酔科蘇生科	1,040,000	補委	日本学術振興会
代謝競合による免疫抑制機構の解明とその克服に向けた基礎的研究	桑原 有紀	耳鼻咽喉科	1,690,000	補委	日本学術振興会
GABA神経系と免疫系の相互作用解析に基づく統合失調症の病態解明	藤原 和之	精神科神経科	1,560,000	補委	日本学術振興会
口腔癌の放射線治療反応性に関連する遺伝子変異プロファイルの同定	水上 達治	重粒子線医学研究センター	2,080,000	補委	日本学術振興会
乳幼児の急性骨髄性白血病における分子生物学異常の解析及び新たな治療戦略の構築	原 勇介	小児科	1,300,000	補委	日本学術振興会
非侵襲的評価法を用いた原発性肩こりの病態解明	設楽 仁	整形外科	1,300,000	補委	日本学術振興会
痛み治療のための再生医療の開発:細胞移植技術と徐放製剤を活用した新規アプローチ	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	9,490,000	補委	日本学術振興会
血管平滑筋細胞の脂肪酸組成と分化転換:糖尿病性動脈硬化の新規メカニズムの解明	倉林 正彦	循環器内科	3,380,000	補委	日本学術振興会
がん重粒子線治療の高度化と治療個別化の為に基礎的・臨床的研究	中野 隆史	放射線科	3,120,000	補委	日本学術振興会
骨格筋分泌糖代謝改善物質の研究	齋藤 従道	内分泌糖尿病内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
マクロファージ遊走阻止因子(MIF)-CD74系による肝発癌促進機構の解明	堀口 昇男	消化器・肝臓内科	910,000	補委	日本学術振興会
早期消化管癌における低侵襲治療の安全性および確実性の向上を目指した注入術の開発	浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	910,000	補委	日本学術振興会
上方の遅伝導路による房室リエントリー性頻拍の診断法とアブレーション治療法の開発	金古 善明	循環器内科	260,000	補委	日本学術振興会
ATP可視化マウスによる心筋梗塞でのATP変動の時間的空間的解析と生理学的意義	小板橋 紀通	循環器内科	1,690,000	補委	日本学術振興会
糸球体上皮細胞障害におけるmiR-143の役割の解明	坂入 徹	腎臓・リウマチ内科	1,170,000	補委	日本学術振興会
食塩感受性高血圧における炎症性シグナルと高張性ナトリウム蓄積の意義	中村 哲也	循環器内科	910,000	補委	日本学術振興会

小計16

非翻訳リポート伸長による脊髄小脳失調症の病態解明と治療開発	池田 佳生	脳神経内科	1,430,000	補委	日本学術振興会
変異KCNJ5マウスを用いた原発性アルドステロン症発症機構の解明	中島 康代	内分泌糖尿病内科	1,560,000	補委	日本学術振興会
樹状細胞に発現するShp-1が制御する自己免疫現象の解析	金子 和光	腎臓・リウマチ内科	910,000	補委	日本学術振興会
トリプルネガティブ乳癌に対する分子標的RI内用療法薬の開発	勝又 奈津美	核医学科	1,950,000	補委	日本学術振興会
悪性リンパ腫におけるアミノ酸トランスポーターの解析と治療への応用	塚本 憲史	血液内科	910,000	補委	日本学術振興会
腫瘍切除後のメモリーCD8T細胞誘導による新規癌免疫アジュバント療法の開発	矢島 俊樹	呼吸器外科	910,000	補委	日本学術振興会
慢性痛(脳機能障害性)の中樞メカニズムをMRIで解明する研究	荻野 祐一	麻酔科蘇生科	1,690,000	補委	日本学術振興会
前立腺癌に対するX線及び重粒子治療におけるスタチン併用効果の基礎的研究	関根 芳岳	泌尿器科	1,300,000	補委	日本学術振興会
卵巣癌におけるレチノイン酸シグナル伝達の機能解析	平川 隆史	産科婦人科	1,170,000	補委	日本学術振興会
フザリウム・ソラニ隠べい種におけるアゾール系抗真菌薬感受性の多様性に関する研究	戸所 大輔	眼科	1,170,000	補委	日本学術振興会
小児固形がんにおける循環腫瘍細胞を用いた新規診断・評価法の開発	鈴木 信	小児外科	1,170,000	補委	日本学術振興会
新規肝線維化マーカー糖蛋白WFA-M2BPの肝再生促進効果による革新的治療の開発	調 憲	肝胆膵外科	520,000	補委	日本学術振興会
超高精度プロテオーム解析を用いた圧迫性神経障害の新規血中バイオマーカーの確立	筑田 博隆	整形外科	1,560,000	補委	日本学術振興会
報酬系活性化BMIによる慢性痛解消の再生医学的検証と高次脳機能解析	齋藤 繁	麻酔科蘇生科	650,000	補委	日本学術振興会
統合失調症の脳局所／領域間ネットワーク病態についての機能的コネクトームMEG研究	武井 雄一	精神科神経科	910,000	補委	日本学術振興会
重粒子線照射後におけるヒト癌細胞の浸潤、転移能についての研究	村田 和俊	重粒子線医学研究センター	1,040,000	補委	日本学術振興会

小計16

COX-2,ケモカインシステムを標的にした口腔癌リンパ節後発転移に対する治療戦略	小川 将	歯科口腔・顎顔面外科	910,000	補 委	日本学術振興会
口腔癌の集学的治療に対する代謝PETイメージングの検討	金 舞	歯科口腔・顎顔面外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
「自我脳」の機能にもとづく精神疾患の生活障害の解明とリカバリーの脳科学	福田 正人	精神科神経科	2,860,000	補 委	日本学術振興会
敗血症性中枢神経障害における高血糖の功罪とその是正による神経障害軽減の可能性	門井 雄司	手術部	1,040,000	補 委	日本学術振興会
一過性虚血による内側前庭神経核ニューロンの膜特性変化に対するセロトニンの影響	紫野 正人	耳鼻咽喉科	520,000	補 委	日本学術振興会
StageⅢ結腸癌治療切除例に対する術後mFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	小川 博臣	消化管外科	21,600	補 委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
脳梗塞再発高リスク患者を対象とした抗血小板薬併用療法の有効性及び安全性の検討CSPS.com	好本 裕平	脳神経外科	64,800	補 委	公益財団法人循環器病研究振興財団
化学療法未施工ⅢB/Ⅳ期非扁平上皮非小細胞肺癌に対するnab-Paclitaxel+Carboplatin+Bvacizumab併用療法の第Ⅰ/Ⅱ相試験(TORG1424/OLCSG1402)	砂長 則明	呼吸器アレルギー内科	300,000	補 委	特定非営利活動法人胸部腫瘍臨床研究機構
進行悪性黒色腫に対するニボルマブの有効性評価に関する観察研究	石川 治	皮膚科	21,600	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
ボルテゾミブおよびレナリドミド治療後再発多発性骨髄腫患者におけるボマリドミドおよびデキサメタゾン併用療法の有効性に関する国際共同第Ⅱ相試験	半田 寛	血液内科	200,000	補 委	特定非営利活動法人 疫学臨床試験研究支援機構
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	鈴木 和浩	泌尿器科	462,500	補 委	特定非営利活動法人J-CaP研究会

小計11

特発性間質性肺炎に対する多施設共同前向き観察研究	古賀 康彦	呼吸器アレルギー内科	194,400	補 委	特定非営利活動法人North East Japan Study Group
分化型甲状腺癌を対象としたレンバチニブの治療効果探索のためのコホート研究	藤井 孝明	乳腺内分泌外科	21,600	補 委	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
ロンサーフ(TFTD)使用症例の後ろ向き観察(コホート)研究(JFMC50-1701-C6)	小川 博臣	消化管外科	576,720	補 委	公益財団法人がん集学的治療研究財団
婦人科悪性腫瘍患者の静脈血栓塞栓症に関する多施設共同前向き登録研究および単群検証的臨床試験	平川 隆史	産科婦人科	955,800	補 委	一般財団法人北関東婦人科がん臨床試験コンソーシアム
脂肪酸の鎖長を基軸とした患者の制御機構と医療展開に向けた基板構築	倉林 正彦	循環器内科	9,360,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
疾患モデル高度化による視床下部・下垂体難病研究	山田 正信	内分泌代謝内科	3,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
主体的人生のための統合失調症リカバリー支援—当事者との共同創造 co-production による実践ガイドライン策定	福田 正人	精神科神経科	8,730,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
うつ症状の神経基板を反映する臨床バイオマーカーの探索と新規治療技術における有用性の検討	福田 正人	精神科神経科	8,118,500	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
薬物性肝障害の臨床試料収集と関連解析	佐藤 賢	消化器肝臓内科	4,030,000	補 委	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団
難治性副腎疾患の診療に直結するエビデンス創出	山田 正信	内分泌代謝内科	260,000	補 委	独立行政法人国立病院機構京都医療センター
評価系の構築および核酸アプタマーの機能解析	山田 正信	内分泌代謝内科	3,250,000	補 委	日本大学

小計11

先天性および若年性視覚聴覚二重障害の原因となる難病の診療向上に向けた、疾患横断的な全国多施設レジストリ研究	近松 一朗	耳鼻咽喉科	325,000	補 委	独立行政法人国立病院機構東京医療センター
早期関節リウマチ患者における初期治療効果反応性による治療強化の予後予測に関する研究	岡邨 興一	整形外科	100,000	補 委	国立大学法人名古屋大学
トレーサビリティの確保された線源と画像誘導を利用した高線量率小線源治療の標準化と高度化の研究	中野 隆史	放射線科	380,000	補 委	国立研究開発法人国立がん研究センター
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	石川 治	皮膚科	100,001	補 委	国立大学法人熊本大学
小児脳腫瘍に対する多施設共同研究による治療開発	平戸 純子	病理部	2,150,000	補 委	地方独立行政法人大阪市民病院機構
副作用自発報告の充実	中村 哲也	臨床試験部	500,000	補 委	学校法人北里研究所
病態及び治療体系に基づいた神経障害性疼痛の分類の検討	筑田 博隆	整形外科	195,000	補 委	学校法人自治医科大学
				補 委	

小計7

計123件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kishi C, Motegi SI, Yasuda M, et al.	皮膚科	Therapeutic efficacy and adverse events of hydroxychloroquine administration in Japanese systemic/cutaneous lupus erythematosus patients.	J Dermatol. 2018 Aug;45(8):1020-1022. doi: 10.1111/1346-8138.14512. No abstract available.	Original Article
2	Kurihara J, Yokoo S, Ichikawa M, et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Intraosseous intraneural perineurioma derived from the inferior alveolar nerve with an abnormality of chromosome 22 and expression of the BCR-ABL fusion gene: report of a case and review of recent literature.	World J Surg Oncol. 2018 Sep 13;16(1):189. doi: 10.1186/s12957-018-1481-8. Review.	Original Article
3	Tsukamoto N, Yokohama A, Higuchi T, et al.	腫瘍センター	Tumor long-axis diameter and SUVmax predict long-term responders in 90Y-ibritumomab tiuxetan monotherapy.	Int J Hematol. 2019 Jan;109(1):91-97. doi: 10.1007/s12185-018-2526-z. Epub 2018 Sep 10.	Original Article
4	Kadoi Y.	手術部	Re: Quotation of Heart Rate Variability Parameters with Their Normalized Units.	Turk J Anaesthesiol Reanim. 2018 Jun;46(3):245. doi: 10.5152/TJAR.2018.010518. Epub 2017 Jun 1. No abstract available.	Original Article
5	Yokohama A, Yokote K, Maruhashi T.	輸血部	Apheresis on aged patients/donors with complicated backgrounds like ischemic heart disease, arrhythmia, and others.	Transfus Apher Sci. 2018 Oct;57(5):619-622. doi: 10.1016/j.transci.2018.09.006. Epub 2018 Sep 18. Review.	Original Article
6	Tosaka M, Shimizu T, Miyagishima T, et al.	脳神経外科	Combined supra-infratellar approach to pituitary macroadenoma with oculomotor cistern extension: surgical strategy and experience.	Acta Neurochir (Wien). 2019 May;161(5):1025-1031. doi: 10.1007/s00701-019-03869-6. Epub 2019 Mar 12.	Original Article
7	Akiyama H, Takahashi I, Shimoda Y, et al.	眼科	Ir(iii) complex-based oxygen imaging of living cells and ocular fundus with a gated ICCD camera.	Photochem Photobiol Sci. 2018 Jun 13;17(6):846-853. doi: 10.1039/c8pp00122g.	Original Article
8	Akiyama H, Li D, Shimoda Y, et al.	眼科	Observation of neovascularization of the disc associated with proliferative diabetic retinopathy using OCT angiography.	Jpn J Ophthalmol. 2018 May;62(3):286-291. doi: 10.1007/s10384-018-0571-z. Epub 2018 Feb 19.	Original Article

小計8

9	Oshima K, Murata M, Aoki M, et al.	救命・総合医療センター	Efficacy of the Treatment of Elderly Trauma Patients Requiring Intensive Care.	Emerg Med Int. 2018 Dec 30;2018:2137658. doi: 10.1155/2018/2137658. eCollection 2018.	Original Article
10	Oshima K, Murata M, Aoki M, et al.	救命・総合医療センター	Report of Four Cases with Equestrian Injury: Therapeutic Approach and Outcome.	Case Rep Emerg Med. 2018 Jun 27;2018:8283179. doi: 10.1155/2018/8283179. eCollection 2018.	Case report
11	Shimizu K, Goto Y, Kawabata-Iwakawa R, et al.	外科診療センター	Stathmin-1 Is a Useful Diagnostic Marker for High-Grade Lung Neuroendocrine Tumors.	Ann Thorac Surg. 2019 Jul;108(1):235-243. doi: 10.1016/j.athoracsur.2019.02.040. Epub 2019 Mar 22.	Original Article
12	Shimizu K, Ohtaki Y, Okumura T, et al.	呼吸器外科	Outcomes and prognostic factors after pulmonary metastasectomy in patients with colorectal cancer with previously resected hepatic metastases.	J Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Jan 11. pii: S0022-5223(19)30002-9. doi: 10.1016/j.jtcvs.2018.12.075. [Epub ahead of print]	Original Article
13	Shimizu K, Ohtaki Y, Nakazawa S, et al.	呼吸器外科	Minimally Invasive Open-Window Thoracostomy Using Wound Edge Protectors.	Ann Thorac Surg. 2019 May;107(5):e371-e373. doi: 10.1016/j.athoracsur.2018.10.064. Epub 2018 Dec 5.	Original Article
14	Tsushima Y, Awai K, Shinoda G, et al.	核医学科	Post-marketing surveillance of gadobutrol for contrast-enhanced magnetic resonance imaging in Japan.	Jpn J Radiol. 2018 Nov;36(11):676-685. doi: 10.1007/s11604-018-0778-4. Epub 2018 Sep 19.	Original Article
15	Sato K, Uraoka T.	消化器・肝臓内科	Challenge to overcome: Nonstructural protein 5A-P32 deletion in direct-acting antiviral-based therapy for hepatitis C virus.	World J Gastroenterol. 2018 Oct 14;24(38):4304-4310. doi: 10.3748/wjg.v24.i38.4304.	Others
16	Kuroda M, Maeda T, Usuda I, et al.	麻酔科蘇生科	Utility of Combined Assessment With 2- and 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography for Acommissural Unicuspid Pulmonic Valve With Severe Pulmonic Valve Stenosis.	A A Pract. 2018 Oct 15;11(8):230-232. doi: 10.1213/XAA.0000000000000790. No abstract available.	Original Article
17	Ohno T, Noda SE, Murata K, et al.	重粒子線医学センター	Phase I Study of Carbon Ion Radiotherapy and Image-Guided Brachytherapy for Locally Advanced Cervical Cancer.	Cancers (Basel). 2018 Sep 18;10(9). pii: E338. doi: 10.3390/cancers10090338.	Original Article
18	Shimizu A, Kuriyama Y, Hasegawa M, et al.	皮膚科	Nail Squamous Cell Carcinoma: A Hidden High-risk HPV Reservoir for Sexually Transmitted Infections.	J Am Acad Dermatol. 2019 Mar 28. pii: S0190-9622(19)30514-6. doi: 10.1016/j.jaad.2019.03.070. [Epub ahead of print] Review.	Original Article
19	Ogino Y, Kawamichi H, Kakeda T, et al.	麻酔科蘇生科	Exploring the Neural Correlates in Adopting a Realistic View: A Neural Structural and Functional Connectivity Study With Female Nurses.	Front Hum Neurosci. 2019 Jun 11;13:197. doi: 10.3389/fnhum.2019.00197. eCollection 2019.	Original Article

20	Tobe M, Saito S.	麻酔科蘇生科	In reply: Use of low-molecular weight dextran as an LA adjuvant to extend LA action.	J Anesth. 2019 Feb;33(1):164. doi: 10.1007/s00540-018-2574-9. Epub 2018 Dec 5. No abstract available.	Letter
21	Tobe M, Suto T, Saito S.	麻酔科蘇生科	The history and progress of local anesthesia: multiple approaches to elongate the action.	J Anesth. 2018 Aug;32(4):632-636. doi: 10.1007/s00540-018-2514-8. Epub 2018 May 31.	Original Article
22	Taketomi-Takahashi A, Tsushima Y.	核医学科	In Utero Exposure to Gadolinium-based Contrast Agents.	Radiology. 2018 Aug;288(2):633-635. doi: 10.1148/radiol.2018180147. Epub 2018 Jun 26. No abstract available.	Letter
23	Todokoro D, Suzuki T, Tamura T, et al.	眼科	Efficacy of Luliconazole Against Broad-Range Filamentous Fungi Including Fusarium solani Species Complex Causing Fungal Keratitis.	Cornea. 2019 Feb;38(2):238-242. doi: 10.1097/ICO.0000000000001812.	Original Article
24	Todokoro D, Eguchi H, Suzuki T, et al.	眼科	Genetic diversity and persistent colonization of Enterococcus faecalis on ocular surfaces.	Jpn J Ophthalmol. 2018 Nov;62(6):699-705. doi: 10.1007/s10384-018-0630-5. Epub 2018 Oct 15.	Original Article
25	Todokoro D, Mochizuki K, Nishida T, et al.	眼科	Isolates and antibiotic susceptibilities of endogenous bacterial endophthalmitis: A retrospective multicenter study in Japan.	J Infect Chemother. 2018 Jun;24(6):458-462. doi: 10.1016/j.jiac.2018.01.019. Epub 2018 Feb 24.	Original Article
26	Sohda M, Saito H, Kuriyama K, et al.	外科診療センター	Post-esophagectomy Adjuvant Chemotherapy Benefits Esophageal Cancer Patients.	In Vivo. 2019 Mar-Apr;33(2):501-506. doi: 10.21873/invivo.11502.	Original Article
27	Sohda M, Kuriyama K, Yoshida T, et al.	外科診療センター	Comparable Data Between Double Endoscopic Intraluminal Operation and Conventional Endoscopic Submucosal Dissection for Esophageal Cancer.	J Gastrointest Surg. 2019 Feb 13. doi: 10.1007/s11605-019-04137-9. [Epub ahead of print]	Original Article
28	Yasuda M, Morimoto N, Yonemoto Y, et al.	皮膚科	Concurrent development of psoriatic arthritis, drug-induced interstitial pneumonia, and increased anti-nuclear antibodies in a patient with psoriasis vulgaris undergoing adalimumab treatment.	Eur J Dermatol. 2019 Feb 1;29(1):81-82. doi: 10.1684/ejd.2018.3434. No abstract available.	Original Article
29	Yasuda M, Morimoto N, Shimizu A, et al.	皮膚科	Familial acanthosis nigricans with the FGFR3 mutation: Differences of pigmentation between male and female	J Dermatol. 2018 Nov;45(11):1357-1361. doi: 10.1111/1346-8138.14623. Epub 2018 Aug 31.	Original Article

30	Hagiwara S, Kaneko M, Aoki M, et al.	救命・総合医療センター	Can the Wish to Receive Intensive Treatment in Elderly Patients with Respiratory Tract Infection Be Predicted?	Intern Med. 2018 Jul 15;57(14):1989-1993. doi: 10.2169/internalmedicine.01 55-17. Epub 2018 Mar 9.	Original Article
31	Sunaga N, Miura Y, Tsukagoshi Y, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Dual inhibition of MEK and p38 impairs tumor growth in KRAS- mutated non-small cell lung cancer.	Oncol Lett. 2019 Mar;17(3):3569-3575. doi: 10.3892/ol.2019.10009. Epub 2019 Feb 4.	Original Article
32	Ogawa Y, Yanagisawa K, Uchiyama Y, et al.	血液内科	Successful hemostatic management of major surgery for cervical spondylotic myelopathy in a patient with severe factor XI deficiency.	Int J Hematol. 2018 Oct;108(4):443-446. doi: 10.1007/s12185-018-2462- y. Epub 2018 Apr 30.	Original Article
33	Tajika T, Kuboi T, Mieda T, et al.	整形外科	Digital flexion contracture caused by tophaceous gout in flexor tendon.	SAGE Open Med Case Rep. 2019 Apr 22;7:2050313X19844708. doi: 10.1177/2050313X19844708 . eCollection 2019.	Case report
34	Tajika T, Oya N, Ichinose T, et al.	整形外科	Relationship between the elbow joint valgus instability and forearm flexor muscle strength in high school pitchers with and without symptom.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2019 Jan- Apr;27(1):230949901983266 4. doi: 10.1177/2309499019832664.	Original Article
35	Yoshida Y, Sejimo Y, Kurachi M, et al.	重粒子線医学センター	X-ray irradiation induces disruption of the blood-brain barrier with localized changes in claudin-5 and activation of microglia in the mouse brain.	Neurochem Int. 2018 Oct;119:199-206. doi: 10.1016/j.neuint.2018.03.00 2. Epub 2018 Mar 12.	Original Article
36	Fujii T, Yanai K, Tokuda S, et al.	乳腺・内分泌外科	Relationship Between FDG Uptake and Neutrophil/Lymphocyte Ratio in Patients with Invasive Ductal Breast Cancer.	Anticancer Res. 2018 Aug;38(8):4927-4931. doi: 10.21873/anticancer.12809.	Original Article
37	Ikeuchi H, Koinuma K, Nakasatomi M, et al.	腎臓・リウマチ内科	Hepatitis E during Tocilizumab Therapy in a Patient with Rheumatoid Arthritis: Case Report and Literature Review.	Case Rep Rheumatol. 2018 Jul 26;2018:6873276. doi: 10.1155/2018/6873276. eCollection 2018.	Case report
38	Matsumoto H, Morimoto M, Mimura K, et al.	眼科	Treat-and-Extend Regimen with Aflibercept for Neovascular Age- Related Macular Degeneration: Efficacy and Macular Atrophy Development.	Ophthalmol Retina. 2018 May;2(5):462-468. doi: 10.1016/j.oret.2017.09.002. Epub 2017 Nov 13.	Original Article
39	Matsumoto H, Mukai R, Morimoto M, et al.	眼科	Clinical characteristics of pachydrusen in central serous chorioretinopathy.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2019 Jun;257(6):1127-1132. doi: 10.1007/s00417-019-04284- 4. Epub 2019 Mar 9.	Original Article

40	Matsumoto H, Sugio S, Seghers F, et al.	眼科	Retinal Detachment- Induced Müller Glial Cell Swelling Activates TRPV4 Ion Channels and Triggers Photoreceptor Death at Body Temperature.	J Neurosci. 2018 Oct 10;38(41):8745-8758. doi: 10.1523/JNEUROSCI.0897- 18.2018. Epub 2018 Aug 24.	Original Article
41	Sakairi T, Sakurai N, Nakasatomi M, et al.	腎臓・リウマチ内科	Hypertrophic pachymeningitis associated with antineutrophil cytoplasmic antibody- associated vasculitis: a case series of 15 patients.	Scand J Rheumatol. 2019 May;48(3):218-224. doi: 10.1080/03009742.2018.149 8916. Epub 2018 Nov 5.	Original Article
42	Takahashi A, Wakihata S, Ma L, et al.	重粒子線医学センター	Temporary Loading Prevents Cancer Progression and Immune Organ Atrophy Induced by Hind-Limb Unloading in Mice.	Int J Mol Sci. 2018 Dec 9;19(12). pii: E3959. doi: 10.3390/ijms19123959.	Original Article
43	Makiguchi T, Yokoo S, Kanno Y, et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Risk Factors for Surgical Site Infection in Patients Undergoing Free and Pedicled Myocutaneous Flap Reconstruction After Oral Cancer Resection.	J Oral Maxillofac Surg. 2019 May;77(5):1075-1081. doi: 10.1016/j.joms.2018.12.028. Epub 2019 Jan 4.	Original Article
44	Makiguchi T, Atomura D, Nakamura H, et al.	歯科口腔・顎顔面外科	Quantitative assessment and risk factors for chest wall deformity resulting from tissue expansion for breast reconstruction.	Breast Cancer. 2019 Jul;26(4):446-451. doi: 10.1007/s12282-018-00942- 3. Epub 2019 Jan 2.	Original Article
45	Makiguchi T, Nakamura H, Fujii T, et al.	形成外科	Quantitative assessment and risk factors for nipple-areolar complex malposition after nipple-sparing mastectomy.	Breast Cancer. 2019 Jan;26(1):58-64. doi: 10.1007/s12282-018-0890- 4. Epub 2018 Jul 6.	Original Article
46	Makiguchi T, Yokoo S, Kurihara J.	歯科口腔・顎顔面外科	Risk factors for postoperative delirium in patients undergoing free flap reconstruction for oral cancer.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2018 Aug;47(8):998-1002. doi: 10.1016/j.ijom.2018.03.011. Epub 2018 Apr 10.	Original Article
47	Makiguchi T, Yokoo S, Ogawa M.	歯科口腔・顎顔面外科	Standard morphology of the oral commissure and changes resulting from reconstruction for defects involving the commissure.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2018 Oct;47(10):1274-1280. doi: 10.1016/j.ijom.2018.01.009. Epub 2018 May 7.	Original Article
48	Takazawa T, Sabato V, Ebo DG.	集中治療部	Invitro diagnostic tests for perioperative hypersensitivity, a narrative review: potential, limitations, and perspectives.	Br J Anaesth. 2019 Jul;123(1):e117-e125. doi: 10.1016/j.bja.2019.01.002. Epub 2019 Feb 12. Review.	Original Article
49	Takazawa T, Tobe M, Kimura M, et al.	集中治療部	Physiological and Pharmaceutical Knowledge in "Ninja" Society: Suggestions for Modern Anesthesiologists and Intensivists.	J Anesth Hist. 2018 Oct;4(4):209-213. doi: 10.1016/j.janh.2018.10.006. Epub 2018 Nov 14.	Original Article

小計10

50	Koitabashi N, Yamaguchi T, Fukui D, et al.	循環器内科	Peripartum Iliac Arterial Aneurysm and Rupture in a Patient with Vascular Ehlers-Danlos Syndrome Diagnosed by Next-Generation Sequencing.	Int Heart J. 2018 Sep 26;59(5):1180-1185. doi: 10.1536/ihj.17-451. Epub 2018 Aug 29.	Original Article
51	Ishige T.	小児科	Growth failure in pediatric onset inflammatory bowel disease: mechanisms, epidemiology, and management.	Transl Pediatr. 2019 Jan;8(1):16-22. doi: 10.21037/tp.2018.12.04. Review.	Original Article
52	Ishige T, Igarashi Y, Hatori R, et al.	小児科	IL-10RA Mutation as a Risk Factor of Severe Influenza-Associated Encephalopathy: A Case Report.	Pediatrics. 2018 Jun;141(6). pii: e20173548. doi: 10.1542/peds.2017-3548. Epub 2018 May 3.	Original Article
53	Araki K, Kubo N, Ishii N, et al.	肝胆膵外科	Left Lobe Mobilization Strategy of Right-Sided Major Hepatectomy for Treatment of a Tumor Causing Severe Inferior Vena Cava Compression: A Novel Strategy Using the Modified Liver-Hanging Maneuver.	Ann Surg Oncol. 2018 May;25(5):1150-1151. doi: 10.1245/s10434-018-6362-4. Epub 2018 Feb 14.	Original Article
54	Araki K, Kubo N, Watanabe A, et al.	肝胆膵外科	Systematic review of the feasibility and future of laparoscopic liver resection for difficult lesions.	Surg Today. 2018 Jul;48(7):659-666. doi: 10.1007/s00595-017-1607-6. Epub 2017 Nov 13. Review.	Original Article
55	Suzuki T, Kosugi K, Suto T, et al.	麻酔科蘇生科	Sustained-release lidocaine sheet for pain following tooth extraction: A randomized, single-blind, dose-response, controlled, clinical study of efficacy and	PLoS One. 2018 Jul 2;13(7):e0200059. doi: 10.1371/journal.pone.0200059. eCollection 2018.	Original Article
56	Miyazaki M, Saito K, Yanagawa T, et al.	放射線科	Phase I clinical trial of percutaneous cryoablation for osteoid osteoma.	Jpn J Radiol. 2018 Nov;36(11):669-675. doi: 10.1007/s11604-018-0768-6. Epub 2018 Aug 14.	Original Article
57	Arai H, Nobusawa S, Kawabata-Iwakawa R, et al.	病理部	Myeloid sarcoma arising in malignant phyllodes tumour: clonal relationships revealed by comparative genome-wide analyses.	Br J Haematol. 2018 Apr;181(2):255-259. doi: 10.1111/bjh.14539. Epub 2017 Feb 17. No abstract available.	Case report
58	Mukai R, Park DH, Okunuki Y, et al.	眼科	Mouse model of ocular hypertension with retinal ganglion cell degeneration.	PLoS One. 2019 Jan 14;14(1):e0208713. doi: 10.1371/journal.pone.0208713. eCollection 2019.	Original Article
59	Furuta N, Tsukagoshi S, Hirayanagi K, et al.	脳神経内科	Suppression of the yeast elongation factor Spt4 ortholog reduces expanded SCA36 GGCCUG repeat aggregation and cytotoxicity.	Brain Res. 2019 May 15;1711:29-40. doi: 10.1016/j.brainres.2018.12.045. Epub 2019 Jan 2.	Original Article

60	Shibuya K, Kasama S, Funada R, et al.	放射線科	Kounis syndrome induced by contrast media: A case report and review of literature.	Eur J Radiol Open. 2019 Feb 12;6:91-96. doi: 10.1016/j.ejro.2019.02.004. eCollection 2019.	Case report
61	Shibuya K, Ohno T, Katoh H, et al.	重粒子線医学センター	A feasibility study of high-dose hypofractionated carbon ion radiation therapy using four fractions for localized hepatocellular carcinoma measuring .	Radiother Oncol. 2019 Mar;132:230-235. doi: 10.1016/j.radonc.2018.10.009. Epub 2018 Oct 23.	Original Article
62	Shibuya K, Ohno T, Terashima K, et al.	重粒子線医学センター	Short-course carbon-ion radiotherapy for hepatocellular carcinoma: A multi-institutional retrospective study.	Liver Int. 2018 Dec;38(12):2239-2247. doi: 10.1111/liv.13969. Epub 2018 Oct 17.	Original Article
63	Tazawa M, Kurosaki M, Inoue T, et al.	リハビリテーション部	Superior migration of the femoral head in patients with severe hip osteoarthritis influences the gait patterns of the coronal plane.	Hip Int. 2019 Jul;29(4):446-451. doi:10.1177/1120700019827250. Epub 2019 Feb 13.	Original Article
64	Musha A, Yokoo S, Takayama Y, et al.	放射線科	Clinicopathological investigation of odontogenic fibroma in tuberous sclerosis complex.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2018 Jul;47(7):918-922. doi: 10.1016/j.ijom.2018.03.025. Epub 2018 Apr 10.	Original Article
65	Nagano D, Araki T, Yanagisawa K, et al.	臨床薬理学	Darunavir concentration in PBMCs may be a better indicator of drug exposure in HIV patients.	Eur J Clin Pharmacol. 2018 Aug;74(8):1055-1060. doi: 10.1007/s00228-018-2464-y. Epub 2018 May 2.	Original Article
66	Koga Y, Tsurumaki H, Aoki-Saito H, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Roles of Cyclic AMP Response Element Binding Activation in the ERK1/2 and p38 MAPK Signalling Pathway in Central Nervous System, Cardiovascular System, Osteoclast Differentiation and Mucin and Cytokine Production.	Int J Mol Sci. 2019 Mar 17;20(6). pii: E1346. doi: 10.3390/ijms20061346. Review.	Original Article
67	Sakai M, Saito H, Kuriyama K, et al.	外科診療センター	High-resolution Manometry for Esophageal Motility Disorders.	Kyobu Geka. 2018 Sep;71(10):894-899. Japanese.	Original Article
68	Aihara M, Shimizu T, Naito I, et al.	脳神経外科	Surgical Strategies and Clinical Results of Site-Specific Treatment Using High-Flow Bypass for Ruptured Blood Blister-Like Anterior Wall Aneurysms of the Internal Carotid Artery.	World Neurosurg. 2019 Feb 22. pii: S1878-8750(19)30424-3. doi: 10.1016/j.wneu.2019.02.018. [Epub ahead of print]	Original Article

小計9

69	Aihara M, Naito I, Shimizu T, et al.	脳神経外科	Predictive factors of medullary infarction after endovascular internal trapping using coils for vertebral artery dissecting aneurysms.	J Neurosurg. 2018 Jul;129(1):107-113. doi: 10.3171/2017.2.JNS162916. Epub 2017 Aug 11.	Original Article
70	Matsumura N, Nobusawa S, Ito J, et al.	病理部	Multiplex ligation-dependent probe amplification analysis is useful for detecting a copy number gain of the FGFR1 tyrosine kinase domain in dysembryoplastic neuroepithelial tumors.	J Neurooncol. 2019 May;143(1):27-33. doi: 10.1007/s11060-019-03138-7. Epub 2019 Mar 1.	Original Article
71	Matsumura N, Ikota H, Yamazaki T, et al.	病理部	Cerebellar high-grade astrocytoma with IDH mutations in the elderly: A report of two cases.	Neuropathology. 2018 Apr 10. doi: 10.1111/neup.12468. [Epub ahead of print]	Case report
72	Suto T, Kato D, Obata H, et al.	麻酔科蘇生科	Tropomyosin Receptor Kinase B Receptor Activation in the Locus Coeruleus Restores Impairment of Endogenous Analgesia at a Late Stage Following Nerve Injury in Rats.	J Pain. 2019 May;20(5):600-609. doi: 10.1016/j.jpain.2018.11.008. Epub 2018 Dec 8.	Original Article
73	Kasama S, Toyama T, Suzuki S, et al.	循環器内科	Assessment of therapeutic effects of statin on cardiac sympathetic nerve activity and cardiac events in patients with ischemic cardiomyopathy and mild to moderate heart failure.	Nucl Med Commun. 2019 Feb;40(2):159-168. doi: 10.1097/MNM.0000000000000955.	Original Article
74	Obokata M, Kurosawa K, Ishida H, et al.	循環器内科	Echocardiography-based pressure-volume loop assessment in the evaluation for the effects of indoxyl sulfate on cardiovascular function.	J Echocardiogr. 2019 Mar;17(1):35-43. doi: 10.1007/s12574-018-0385-5. Epub 2018 Jul 7.	Original Article
75	Obokata M, Iso T, Ohyama Y, et al.	循環器内科	Early increase in serum fatty acid binding protein 4 levels in patients with acute myocardial infarction.	Eur Heart J Acute Cardiovasc Care. 2018 Sep;7(6):561-569. doi: 10.1177/2048872616683635. Epub 2016 Dec 22.	Original Article
76	Kubota Y, Sakai M, Tashiro M, et al.	重粒子線医学センター	Technical Note: Predicting dose distribution with replacing stopping power ratio for inter-fractional motion and intra-fractional motion during carbon ion radiotherapy with passive irradiation method for stage I lung	Med Phys. 2018 Jul;45(7):3435-3441. doi: 10.1002/mp.12966. Epub 2018 May 27.	Original Article
77	Kubo N, Harimoto N, Araki K, et al.	肝胆膵外科	The Feature of Solitary Small Nodular Type of Hepatic Epithelioid Hemangioendothelioma.	Case Rep Gastroenterol. 2018 Aug 21;12(2):402-410. doi: 10.1159/000490524. eCollection 2018 May-Aug.	Case report

78	Kubo N, Harimoto N, Shibuya K, et al.	肝胆膵外科	Successful treatment of isolated bile leakage after hepatectomy combination therapy with percutaneous transhepatic portal embolization and bile duct ablation with ethanol: a case report.	Surg Case Rep. 2018 Jun 19;4(1):61. doi: 10.1186/s40792-018-0463-y.	Original Article
79	Higeta D, Yamaguchi R, Takagi T, et al.	産科婦人科	Familial campomelic dysplasia due to maternal germinal mosaicism.	Congenit Anom (Kyoto). 2018 Nov;58(6):194-197. doi: 10.1111/cga.12279. Epub 2018 Apr 2. Review.	Original Article
80	Uehara A, Motegi SI, Ishibuchi H, et al.	皮膚科	Successful treatment with i.v. immunoglobulin for localized cutaneous immunoglobulin light chain kappa-positive amyloidosis associated with dermatomyositis.	J Dermatol. 2018 May;45(5):e102-e103. doi: 10.1111/1346-8138.14163. Epub 2017 Dec 4. No abstract available.	Letter
81	Kasahara H, Sato M, Nagamine S, et al.	脳神経内科	Temporal Changes on (123)I-Iomazenil and Cerebral Blood Flow Single-photon Emission Computed Tomography in a Patient with Anti-N-methyl-D-aspartate Receptor Encephalitis.	Intern Med. 2019 May 15;58(10):1501-1505. doi: 10.2169/internalmedicine.0987-18. Epub 2019 Feb 1.	Original Article
82	Aoki M, Ogura T, Hagiwara S, et al.	救命・総合医療センター	Prediction of arterial extravasation in pelvic fracture patients with stable hemodynamics using coagulation biomarkers.	World J Emerg Surg. 2019 Mar 19;14:14. doi: 10.1186/s13017-019-0234-5. eCollection 2019.	Original Article
83	Aoki M, Abe T, Hagiwara S, et al.	救命・総合医療センター	The authors reply.	Crit Care Med. 2019 Mar;47(3):e274-e275. doi: 10.1097/CCM.00000000000003607. No abstract available.	Original Article
84	Aoki M, Abe T, Saitoh D, et al.	救命・総合医療センター	Epidemiology, Patterns of treatment, and Mortality of Pediatric Trauma Patients in Japan.	Sci Rep. 2019 Jan 29;9(1):917. doi: 10.1038/s41598-018-37579-3.	Original Article
85	Aoki M, Abe T, Saitoh D, et al.	救命・総合医療センター	Use of Vasopressor Increases the Risk of Mortality in Traumatic Hemorrhagic Shock: A Nationwide Cohort Study in Japan.	Crit Care Med. 2018 Dec;46(12):e1145-e1151. doi: 10.1097/CCM.00000000000003428.	Original Article
86	Aoki M, Tokue H, Miyazaki M, et al.	救命・総合医療センター	Primary postpartum hemorrhage: outcome of uterine artery embolization.	Br J Radiol. 2018 Jul;91(1087):20180132. doi: 10.1259/bjr.20180132. Epub 2018 Apr 18.	Original Article
87	Aoki M, Hagiwara S, Oshima K, et al.	救命・総合医療センター	Obesity was associated with worse neurological outcome among Japanese patients with out-of-hospital cardiac arrest.	Intensive Care Med. 2018 May;44(5):665-666. doi: 10.1007/s00134-017-5042-3. Epub 2018 Jan 19. No abstract available.	Letter

88	Murata M, Aoki M, Hagiwara S, et al.	救命・総合医療センター	Successful Endovascular Therapy in an Elderly Patient with Severe Hemorrhage Caused by Traumatic Injury.	Open Med (Wars). 2018 May 24;13:203-207. doi: 10.1515/med-2018-0031. eCollection 2018.	Original Article
89	Watanabe A, Harimoto N, Araki K, et al.	肝胆膵外科	Absolute Neutrophil Count Predicts Postoperative Prognosis in Mass-forming Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Anticancer Res. 2019 Feb;39(2):941-947. doi: 10.21873/anticancerres.13197.	Original Article
90	Watanabe A, Harimoto N, Araki K, et al.	肝胆膵外科	A new strategy based on fluorodeoxyglucose-positron emission tomography for managing liver metastasis from colorectal cancer.	J Surg Oncol. 2018 Dec;118(7):1088-1095. doi: 10.1002/jso.25250. Epub 2018 Sep 27.	Original Article
91	Watanabe A, Araki K, Harimoto N, et al.	肝胆膵外科	D-dimer predicts postoperative recurrence and prognosis in patients with liver metastasis of colorectal cancer.	Int J Clin Oncol. 2018 Aug;23(4):689-697. doi: 10.1007/s10147-018-1271-x. Epub 2018 Mar 24.	Original Article
92	Takahashi H, Sakakura K, Tada H, et al.	耳鼻咽喉科	Prognostic significance and population dynamics of peripheral monocytes in patients with oropharyngeal squamous cell carcinoma.	Head Neck. 2019 Jun;41(6):1880-1888. doi: 10.1002/hed.25625. Epub 2019 Jan 12.	Original Article
93	Kurozumi S, Matsumoto H, Kurozumi M, et al.	外科診療センター	Prognostic significance of tumour-infiltrating lymphocytes for oestrogen receptor-negative breast cancer without lymph node metastasis.	Oncol Lett. 2019 Mar;17(3):2647-2656. doi: 10.3892/ol.2019.9938. Epub 2019 Jan 16.	Original Article
94	Kurozumi S, Inoue K, Matsumoto H, et al.	外科診療センター	Prognostic utility of tumor-infiltrating lymphocytes in residual tumor after neoadjuvant chemotherapy with trastuzumab for HER2-positive breast cancer.	Sci Rep. 2019 Feb 7;9(1):1583. doi: 10.1038/s41598-018-38272-1.	Original Article
95	Kurozumi S, Yamaguchi Y, Matsumoto H, et al.	外科診療センター	Comparing protein and mRNA expressions of the human epidermal growth factor receptor family in estrogen receptor-positive breast cancer.	Med Mol Morphol. 2019 Jun;52(2):90-98. doi: 10.1007/s00795-018-0206-y. Epub 2018 Sep 27.	Original Article
96	Kurozumi S, Matsumoto H, Inoue K, et al.	外科診療センター	Impact of combining the progesterone receptor and preoperative endocrine prognostic index (PEPI) as a prognostic factor after neoadjuvant endocrine therapy using aromatase inhibitors in postmenopausal ER positive and HER2 negative breast cancer.	PLoS One. 2018 Aug 6;13(8):e0201846. doi: 10.1371/journal.pone.0201846. eCollection 2018.	Original Article

97	Kurozumi S, Joseph C, Sonbul S, et al.	外科診療センター	Clinicopathological and prognostic significance of Ras association and pleckstrin homology domains 1 (RAPH1) in breast cancer.	Breast Cancer Res Treat. 2018 Nov;172(1):61-68. doi: 10.1007/s10549-018-4891-y. Epub 2018 Jul 28.	Original Article
98	Kurozumi S, Joseph C, Sonbul S, et al.	外科診療センター	Clinical and biological roles of Kelch-like family member 7 in breast cancer: a marker of poor prognosis.	Breast Cancer Res Treat. 2018 Aug;170(3):525-533. doi: 10.1007/s10549-018-4777-z. Epub 2018 Apr 9.	Original Article
99	Sekiguchi A, Motegi SI, Uchiyama A, et al.	皮膚科	Botulinum toxin B suppresses the pressure ulcer formation in cutaneous ischemia-reperfusion injury mouse model: Possible regulation of oxidative and endoplasmic reticulum stress.	J Dermatol Sci. 2018 May;90(2):144-153. doi: 10.1016/j.jdermsci.2018.01.006.	Original Article
100	Komatsu Y.	医療の質・安全管理部	Quality Improvement for the Management of Hyponatremia in Kidney Failure: Scholarship of Integration and Application.	Kidney Int Rep. 2018 Nov 23;4(1):14-16. doi: 10.1016/j.ekir.2018.11.009. eCollection 2019 Jan. No abstract available.	Others
101	Shinohara Y, Konno A, Nitta K, et al.	眼科	Effects of Neutralizing Antibody Production on AAV-PHP.B-Mediated Transduction of the Mouse Central Nervous System.	Mol Neurobiol. 2019 Jun;56(6):4203-4214. doi: 10.1007/s12035-018-1366-4. Epub 2018 Oct 5.	Original Article
102	Abe T, Ohno T, Koto M, et al.	重粒子線医学センター	A multi-institutional retrospective study of carbon-ion radiotherapy for non-squamous cell malignant tumors of the nasopharynx: Subanalysis of Japan Carbon-Ion Radiation Oncology Study Group study 1402 HN.	Cancer Med. 2018 Dec;7(12):6077-6083. doi: 10.1002/cam4.1884. Epub 2018 Nov 18.	Original Article
103	Shiba S, Okamoto M, Kiyohara H, et al.	放射線科	Clinical Advantage of Chest-wall Post-mastectomy Radiation Therapy Without Bolus.	In Vivo. 2018 Jul-Aug;32(4):961-965. doi: 10.21873/invivo.11335.	Original Article
104	Shiba S, Shibuya K, Katoh H, et al.	放射線科	No Deterioration in Clinical Outcomes of Carbon Ion Radiotherapy for Sarcopenia Patients with Hepatocellular Carcinoma.	Anticancer Res. 2018 Jun;38(6):3579-3586. doi: 10.21873/anticancer.12631.	Original Article
105	Horiuchi T, Takazawa T, Orihara M, et al.	麻酔科蘇生科	Required cefazolin concentration to maximize diagnostic accuracy of the basophil activation test for cefazolin-induced anaphylaxis.	J Anesth. 2018 Dec;32(6):797-805. doi: 10.1007/s00540-018-2555-z. Epub 2018 Sep 17.	Original Article

106	Horiuchi T, Yokohama A, Orihara M, et al.	麻酔科蘇生科	Usefulness of Basophil Activation Tests for Diagnosis of Sugammadex-Induced Anaphylaxis.	Anesth Analg. 2018 May;126(5):1509-1516. doi: 10.1213/ANE.00000000000000 2879.	Original Article
107	Tsukagoshi M, Wada S, Hirono S, et al.	肝胆膵外科	Identification of a novel HLA-A24-restricted cytotoxic T lymphocyte epitope peptide derived from mesothelin in pancreatic cancer.	Oncotarget. 2018 Jul 31;9(59):31448-31458. doi: 10.18632/oncotarget.25837. eCollection 2018 Jul 31.	Original Article
108	Tsukagoshi M, Araki K, Saito F, et al.	外科診療センター	Evaluation of the International Consensus Guidelines for the Surgical Resection of Intraductal Papillary Mucinous Neoplasms.	Dig Dis Sci. 2018 Apr;63(4):860-867. doi: 10.1007/s10620-017-4667- y. Epub 2017 Jun 30.	Original Article
109	Kasahara N, Sunaga N, Tsukagoshi Y, et al.	先端医療開発センター	Post-treatment Glasgow Prognostic Score Predicts Efficacy in Advanced Non-small- cell Lung Cancer Treated With Anti- PD1.	Anticancer Res. 2019 Mar;39(3):1455-1461. doi: 10.21873/anticancer.13262.	Original Article
110	Kasahara N, Kaira K, Bao P, et al.	呼吸器・アレルギー内科	Correlation of tumor- related immunity with 18F-FDG-PET in pulmonary squamous- cell carcinoma.	Lung Cancer. 2018 May;119:71-77. doi: 10.1016/j.lungcan.2018.03.0 01. Epub 2018 Mar 16.	Original Article
111	Kim M, Higuchi T, Nakajima T, et al.	歯科口腔・顎顔面外科	(18)F-FDG and (18)F- FAMT PET-derived metabolic parameters predict outcome of oral squamous cell carcinoma.	Oral Radiol. 2019 Feb 18. doi: 10.1007/s11282-019- 00377-2. [Epub ahead of print]	Original Article
112	Irie D, Okonogi N, Wakatsuki M, et al.	放射線科	Carbon-ion radiotherapy for inoperable endometrial carcinoma.	J Radiat Res. 2018 May 1;59(3):309-315. doi: 10.1093/jrr/rry003.	Original Article
113	Uraoka T, Oka S, Ichiara S, et al.	消化器・肝臓内科	Endoscopic management of colorectal tumors less than 10mm in size: Current status and future perspectives in Japan from a questionnaire survey.	Dig Endosc. 2018 Apr;30 Suppl 1:36-40. doi: 10.1111/den.13060. No abstract available.	Others
114	Harimoto N, Hoshino K, Muranushi R, et al.	肝胆膵外科	Impact of Metabolic Parameters of (18)F- Fluorodeoxyglucose Positron-emission Tomography After Hepatic Resection in Patients With Intrahepatic Cholangiocarcinoma.	Anticancer Res. 2019 Feb;39(2):971-977. doi: 10.21873/anticancer.13201.	Original Article
115	Harimoto N, Nakagawara H, Shirabe K, et al.	肝胆膵外科	Functional Analysis of Human Hepatocytes Isolated From Chimeric Mouse Liver.	Transplant Proc. 2018 Dec;50(10):3858-3862. doi: 10.1016/j.transproceed.2018 .06.035. Epub 2018 Jun 30.	Original Article

116	Harimoto N, Hagiwara K, Yamanaka T, et al.	肝胆膵外科	Fairly rare clear cell adenocarcinoma mimicking liver cancer: a case report.	Surg Case Rep. 2018 Aug 16;4(1):97. doi: 10.1186/s40792-018-0500- x.	Original Article
117	Harimoto N, Hoshino H, Muranushi R, et al.	肝胆膵外科	Skeletal Muscle Volume and Intramuscular Adipose Tissue Are Prognostic Predictors of Postoperative Complications After Hepatic Resection.	Anticancer Res. 2018 Aug;38(8):4933-4939. doi: 10.21873/anticancer.12810.	Original Article
118	Harimoto N, Yoshizumi T, Inokuchi S, et al.	肝胆膵外科	Prognostic Significance of Preoperative Controlling Nutritional Status (CONUT) Score in Patients Undergoing Hepatic Resection for Hepatocellular Carcinoma: A Multi- institutional Study.	Ann Surg Oncol. 2018 Oct;25(11):3316-3323. doi: 10.1245/s10434-018-6672- 6. Epub 2018 Jul 26.	Original Article
119	Yajima T, Hoshino K, Muranushi R, et al.	外科診療センター	Fas/FasL signaling is critical for the survival of exhausted antigen- specific CD8(+) T cells during tumor immune response.	Mol Immunol. 2019 Mar;107:97-105. doi: 10.1016/j.molimm.2019.01.0 14. Epub 2019 Jan 30.	Original Article
120	Yajima T, Shimizu K, Mogi A, et al.	呼吸器外科	Thoracoscopic right middle lobe segmentectomy.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2019 Mar;67(3):344-347. doi: 10.1007/s11748-018- 0964-4. Epub 2018 Jun 25.	Original Article
121	Yajima T, Mogi A, Shimizu K, et al.	呼吸器外科	Ectopic thymoma in the paratracheal region of the middle mediastinum: a rare case report and literature review.	BMC Res Notes. 2018 Apr 25;11(1):256. doi: 10.1186/s13104-018-3359- 9. Review.	Original Article
122	Shirabe K, Bekki Y, Gantumur D, et al.	肝胆膵外科	Response to the letter by Dr. Naoya Yamada, and Dr. Koichi Mizuta regarding our manuscript: "Mac-2 binding protein glycan isomer (M2BPGi) is a new serum biomarker for assessing liver fibrosis: more than a biomarker of liver fibrosis".	J Gastroenterol. 2019 Feb;54(2):206-207. doi: 10.1007/s00535-018-1524- 5. No abstract available.	Letter
123	Shirabe K, Eguchi S, Okajima H, et al.	肝胆膵外科	Current Status of Surgical Incisions Used in Donors During Living Related Liver Transplantation-A Nationwide Survey in Japan.	Transplantation. 2018 Aug;102(8):1293-1299. doi: 10.1097/TP.00000000000002 126.	Original Article
124	Shirabe K, Bekki Y, Gantumur D, et al.	肝胆膵外科	Mac-2 binding protein glycan isomer (M2BPGi) is a new serum biomarker for assessing liver fibrosis: more than a biomarker of liver fibrosis.	J Gastroenterol. 2018 Jul;53(7):819-826. doi: 10.1007/s00535-017-1425- z. Epub 2018 Jan 9. Review.	Original Article

125	Chikamatsu K, Tada H, Takahashi H, et al.	耳鼻咽喉科	Expression of immune-regulatory molecules in circulating tumor cells derived from patients with head and neck squamous cell carcinoma.	Oral Oncol. 2019 Feb;89:34-39. doi: 10.1016/j.oraloncology.2018.12.002. Epub 2018 Dec 17.	Original Article
-----	---	-------	--	---	------------------

小計1

計125件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)。
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
～					

計 件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 手順書の主な内容 ○ 病院長の責務、臨床研究審査委員会の業務内容、臨床研究の申請・依頼等の受付方法、責任医師及び分担医師等の業務内容、他の研究機関からIRB審査依頼があった場合の対応等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有 ☐ 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有 ☐ 無
・ 規定の主な内容 ○ 「国立大学法人群馬大学利益相反マネジメント規程」 利益相反マネジメント対象の範囲、利益相反マネジメントの対象、利益相反マネジメントのための調査、利益相反申告書等の保存、学外への情報公開、利益相反管理昭和地区部会の設置等 ○ 「群馬大学利益相反管理昭和地区部会内規」 部会の審議事項、部会の組織、部会長の選出、研究科長等への報告等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 9 回
・ 研修の主な内容 ○ 群馬大学医学部附属病院「臨床試験に関する講習会」 治験・臨床研究に関して、大学病院臨床試験アライアンスと共催で、「臨床試験に関する講習会」を群馬大学医学部附属病院内で9回開催した。倫理指針で定める受講を研究者に義務付けている。 <各回の開催日時、演題、参加人数等> 第1回 平成30年4月24日（火）18時00分～19時30分 参加者数 459名 「研究者の立場から研究不正を考える」 日本学術振興会学術システム研究センター 顧問 黒木 登志夫 先生 第2回 平成30年6月1日（金）18時00分～19時30分 参加者数 147名 「臨床研究法とその対応について」 臨床試験部 中村 哲也 第3回 平成30年6月4日（月）18時00分～19時30分 参加者数 126名 「臨床研究法とその対応について」 臨床試験部 中村 哲也 第4回 平成30年7月13日（金）18時00分～19時30分 参加者数 54名 「最先端医療におけるレギュラトリーサイエンス」 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構（PMDA） 上席審議役（研究支援・推進担当） 桐生 康生 先生	

第5回 平成30年10月30日(火) 18時～19時30分 参加者数46名

「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会申請の留意点① 一多施設共同研究と単施設研究について一」

臨床試験部 中村 哲也

第6回 平成30年11月29日(木) 18時～19時30分 参加者数58名

「人を対象とする医学系研究倫理審査委員会申請の留意点② 一要配慮個人情報と指針におけるオプトアウトについて一」

臨床試験部 中村 哲也

第7回 平成31年1月4日(金) 18時～19時30分 参加者数142名

「個人情報保護法と臨床研究法について」

臨床試験部 中村 哲也

第8回 平成31年1月30日(水) 18時～19時30分 参加者数39名

「個人情報保護法と臨床研究法～臨床研究審査委員会(IRB)へのウェブ申請について～」

臨床試験部 中村 哲也

第9回 平成31年2月21日(木) 17時30分～18時30分 参加者数6名

「個人情報保護法と臨床研究法～臨床研究審査委員会(IRB)へのウェブ申請について～」

臨床試験部 中村 哲也

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

当院では、医学部附属病院の優れた教育機能を十分に活用し、充実した関連病院との連携のもとで、次代を担う実力ある専門医を養成している。具体的には、初期臨床研修で磨いた診療能力をさらに高め、各専門領域の学会認定専門医の取得を目指すための、後期専門研修プログラムを運用している。

当院の後期専門研修プログラム・コース一覧は、下記のとおり。

【平成30年度 群馬大学医学部附属病院 後期専門研修コース・プログラム一覧】

プログラム・コース 運営診療科	プログラム・コース名	受入人数	プログラム・コース 責任者名	各プログラム・コース で取得を目指す基本 領域専門医資格	基本領域専門医資格取得後に可能なサブスペシャリティ研修 (資格名/学会等名)	サブスペシャリティ研修担当医名
循環器内科	群馬大学内科専門医プログラム	30	山田 正信	内科専門医/日本内科学会	総合内科専門医/日本内科学会	倉林 正彦 金古 善明 笠間 周 高間 典明 船田 竜一
					循環器専門医/日本循環器学会	
					心血管インターベンション認定医・専門医/日本心血管インターベンション治療学会	
					不整脈専門医/日本不整脈学会	
					超音波専門医/日本超音波医学会	
					核医学専門医/日本核医学会	
呼吸器・アレルギー内科					総合内科専門医/日本内科学会	前野 敏孝
					呼吸器専門医/日本呼吸器学会	
					アレルギー専門医/日本アレルギー学会	
					感染症専門医/日本感染症学会	
					気管支鏡専門医/日本呼吸器内視鏡学会	
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	
消化器・肝臓内科					総合内科専門医/日本内科学会	河村 修
					消化器病専門医/日本消化器病学会	
					消化器内視鏡専門医/日本消化器内視鏡学会	
					胃腸専門医/日本消化管学会	
					総合内科専門医/日本内科学会	
					肝臓専門医/日本肝臓学会	
内分泌糖尿病内科					消化器病専門医/日本消化器病学会	柿崎 暁
					消化器内視鏡専門医/消化器内視鏡学会	
					総合内科専門医/日本内科学会	
					内分泌代謝科専門医/日本内分泌学会	
					糖尿病専門医/日本糖尿病学会	岡田 秀一 佐藤 哲郎
					甲状腺専門医/日本甲状腺学会	
腎臓・リウマチ内科					総合内科専門医/日本内科学会	廣村 桂樹
					腎臓専門医/日本腎臓学会	
					透析専門医/日本透析医学会	
					リウマチ専門医/日本リウマチ学会	
血液内科					総合内科専門医/日本内科学会	石埴 卓馬 半田 寛
					血液専門医/日本血液学会	
					がん薬物療法専門医/日本臨床腫瘍学会	
					輸血細胞治療学会認定医/日本輸血・細胞治療学会	

					造血細胞移植認定医／日本造血細胞移植学会	
					がん治療認定医／がん治療認定医機構	
					神経内科専門医／日本神経学会	
					総合内科専門医／日本内科学会	
					認知症専門医／日本認知症学会	
					脳卒中専門医／日本脳卒中学会	
脳神経内科						藤田 行雄
循環器外科		1	高橋 徹		心臓血管外科専門医/心臓血管外科専門医認定機構	茂原 淳
呼吸器外科		5	茂木 晃		呼吸器外科専門医／日本呼吸器外科学会	
					外科指導医／日本外科学会	清水 公裕
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					外科指導医／日本外科学会	
					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	
					気管食道科専門医／日本気管食道科学会	
					食道科認定医・食道外科専門医／日本食道学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					臨床腫瘍学会暫定指導医／日本臨床腫瘍学会	
					大腸肛門病専門医・指導医／日本大腸肛門病学会	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					胃腸科認定医・専門医・指導医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医・指導医／日本消化器内視鏡学会	
消化管外科		10	桑野 博行			宮崎 達也 宗田 真 小川 博臣 緒方 杏一 酒井 真 岩松 清人 茂木 陽子
					外科指導医／日本外科学会	
					消化器外科専門医・指導医／日本消化器外科学会	
					肝胆脾外科高度技能専門医／日本肝胆脾外科学会	
					内視鏡外科技術認定／日本内視鏡外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					消化器がん外科治療認定医／日本消化器外科学会	
					消化器病専門医・指導医／日本消化器病学会	
					肝臓専門医／日本肝臓学会	
肝胆脾外科	群馬大学外科専門研修プログラム	5	調 憲	外科専門医／日本外科学会		新木健一郎
					乳腺専門医／日本乳癌学会	
					内分泌・甲状腺外科専門医／日本内分泌外科学会	
					外科指導医／日本外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
乳腺・内分泌外科		6	藤井 孝明			尾林紗弥香 平方 智子 矢島 玲奈 黒住 献
					小児外科専門医／日本小児外科学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					小児がん認定外科医／日本小児血液・がん学会	
					小児泌尿器科認定医／日本小児泌尿器科学会	
					消化器病専門医／日本消化器病学会	
					胃腸科専門医／日本消化管学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
小児外科		3	鈴木 信			鈴木 信
					透視専門医／日本透視医学会	
					がん治療認定医／日本がん治療認定医機構	
					腎移植認定医／日本臨床腎移植学会	
					泌尿器腹腔鏡技術認定医／日本泌尿器科学会、日本泌尿器内視鏡学会	
泌尿器科	群馬大学泌尿器科専門研修プログラム	7	鈴木 和浩	泌尿器科専門医／日本泌尿器科学会		伊藤 一人
					スポーツ医／日本整形外科学会	
					脊椎脊髄病医／日本整形外科学会	
整形外科	群馬大学整形外科専門研修プログラム	11	筑田 博隆	整形外科専門医／日本整形外科学会		大澤 貴志 飯塚 伯

	グラム				リウマチ医／日本整形外科学会	米本 由木夫 田鹿 毅
					リウマチ専門医／日本リウマチ学会	
					手外科専門医／日本手外科学会	
					脊椎脊髄外科指導医／日本脊椎脊髄病学会	
皮膚科	群馬大学皮膚科 専門研修プログラム	5	石川 治	皮膚科専門医／日本 皮膚科学会	皮膚悪性腫瘍指導専門医／日本皮膚科学会 皮膚美容科・レーザー指導専門医／日本皮膚科学会	茂木精一郎 安田 正人
眼科	平成29年度群 馬大学眼科専門 研修プログラム	15	秋山 英雄	眼科専門医／日本眼 科学会	眼科光線力学的療法認定医／眼科 PDT 研究会	秋山 英雄
耳鼻咽喉科	群馬大学医学部 附属病院耳鼻咽 喉科専門研修プ ログラム	5	近松 一朗	耳鼻咽喉科専門医／ 日本耳鼻咽喉科学会	耳鼻咽喉科指導医／日本耳鼻咽喉科学会 補聴器相談医／日本耳鼻咽喉科学会 頭頸部がん専門医／日本頭頸部外科学会 気管食道科専門医／日本気管食道科学会 アレルギー専門医／日本アレルギー学会	高橋 克昌 新國 摂 村田 考啓 中島 恭子 高安 幸弘 豊田 実 紫野 正人 鎌田 英男
精神科神経科	精神科専門医研 修プログラム	若 干 名	福田 正人	精神科専門医／ 日本精神神経学会	精神保健指導医／厚生労働省 精神科専門医指導医／日本精神神経学会 一般病院連携精神医学専門医／日本総合病院精神医学学会 一般病院連携精神医学専門医指導医／日本総合病院精神医学学会 精神保健判定医／(心神喪失者等医療観察法)法令による資格 日本児童青年精神医学学会認定医／日本児童青年精神医学学会	成田 耕介 藤平 和吉 須田 真史 武井 雄一 成田 秀幸 小野 樹郎
麻酔科蘇生科	群馬大学医学部 附属病院麻酔科 専門 研修プロ グラム	25	齋藤 繁	麻酔科専門医／ 日本麻酔科学会	麻酔科専門医／日本麻酔科学会 集中治療専門医／日本集中治療医学会 ペインクリニック専門医／日本ペインクリニック学会	高澤 知規 荻野 祐一
脳神経外科	44：脳卒中コー ス	2	好本 裕平	脳神経外科専門医／ 日本脳神経外科学会	脳血管内治療専門医／日本脳神経血管内治療学会 脳卒中専門医／日本脳卒中学会	清水 立矢
	45：脳腫瘍コー ス	2			がん治療認定医／日本がん治療認定医機構、日本脳腫瘍学会	堀口 桂志
	46：機能的脳外 科コース	1			機能的定位脳手術技術認定医／日本定位・機能神経外科学会	平戸 政史
	47：神経外傷コ ース	1			救急科専門医／日本救急医学会、日本神経外傷学会	田中 志岳
	48：脊髄外科コ ース	1			脊髄外科認定医／日本脊髄外科学会	本多 文昭
	49：小児脳外科 コース	1			神経内視鏡技術認定医／日本神経内視鏡学会、日本小児神経 外科学会	登坂 雅彦
小児科	群馬大学医学部 附属病院小児科 専門研修プログ ラム	12	荒川 浩一	小児科専門医／ 日本小児科学会	アレルギー専門医／日本アレルギー学会 血液専門医／日本血液学会 がん治療認定医／日本がん治療認定医機構 腎臓科専門医／日本腎臓病学会 新生児専門医／日本周産期・新生児医学会 小児神経専門医／日本小児神経学会 小児栄養消化器肝臓認定医／日本小児栄養消化器肝臓学会	滝沢 琢己 奥野はるな 小林 靖子 藤生 徹 緒方 朋美 羽鳥 麗子 本島 敏乃

					臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	
産科婦人科	群馬大学医学部 附属病院産婦人 科専門研修施設 群専門研修プロ グラム	5	岸 裕司	産科婦人科専門医／ 日本産科婦人科学会	周産期専門医(母体・胎児専門医)／日本周産期・新生児学会	亀田 高志 岸 裕司 平川 隆史
					生殖医療専門医／日本生殖医学会	
					内視鏡外科学会技術認定医／日本内視鏡外科学会	
					内分泌代謝科(産婦人科)専門医／日本内分泌学会	
					婦人科腫瘍専門医／日本婦人科腫瘍学会	
放射線科	群馬大学医学部 附属病院放射線 科専門研修プロ グラム	12	中野 隆史 対馬 義人	放射線科専門医／ 日本医学放射線学会	放射線治療専門医／日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学 会	河村 英将 樋口 徹也 高橋 綾子
核医学科					放射線診断専門医／日本医学放射線学会	
					核医学専門医／日本核医学会	
					IVR 専門医／日本 IVR 学会	
					超音波専門医／日本超音波医学会	
検査部・感染 制御部	群馬大学臨床検 査専門研修プロ グラム	2	村上 正巳	臨床検査専門医／ 日本臨床検査医学会	ICD(インフュージョンコントローラ)／ICD 制度協議会	徳江 豊 木村 孝穂 奈良 誠人 常川 勝彦 藤田 明弘 黒沢 幸嗣
					感染症専門医／日本感染症学会	
					人間ドック健診専門医／日本人間ドック学会	
					超音波専門医／日本超音波医学会	
					臨床遺伝専門医／日本人類遺伝学会	
					細胞診専門医／日本臨床細胞学会	
					消化器内視鏡専門医／日本消化器内視鏡学会	
					臨床神経生理専門医／日本臨床神経生理学会	
集中治療部	59：集中治療専 門医コース	5	齋藤 繁	集中治療専門医／ 日本集中治療医学会	麻酔科専門医／日本麻酔科学会	日野原 宏
					救急科専門医／日本救急医学会	
病理部	群馬大学医学部 病理専門研修プ ログラム	3	小山 徹也	病理専門医／日本病 理学会		横尾 英明 平戸 純子
リハビリテー ション部	群馬大学リハビ リテーション科 専門研修プログ ラム	3	和田 直樹	リハビリテーション科専門医 ／ 日本リハビリテーション医学 会		田澤 昌之
救急科	群馬大学医学部 附属病院救急科 専門研修プログ ラム	3	大嶋 清宏	救急科専門医／ 日本救急医学会	外傷専門医／日本外傷学会	萩原 周一
					集中治療専門医／日本集中治療医学会	
総合医療部	67：群馬大学医 学部附属病院家 庭医療後期研修 プログラム(平成 26 年度以前の 卒業生向けプロ グラム)	3	田村 遼一	家庭医療専門医／日 本プライマリ・ケア 連合学会	未定(協議中)	小和瀬桂子
					家庭医療専門医／日本プライマリ・ケア連合学会	
					認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	
					老年病専門医／日本老年医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
	群馬大学医学部 附属病院総合診 療専門研修プロ グラム(平成 27 年度以後の卒業 生向けプログラ ム)	2～ 4 (協 議 中)		総合診療専門医	未定(協議中)	
					認定病院総合診療医／日本病院総合診療医学会	
					日本東洋医学会漢方専門医／日本東洋医学会	
					老年病専門医／日本老年医学会	

※ 形成外科領域については、神戸大学の神戸大学形成外科研修プログラムの連携施設として専門研修が可能です。

専攻医として一般社団法人日本専門医機構が認定する基本領域の専門医の取得を目指す者の身分を、群馬大学医学部附属病院シニアレジデントとしている。

(当院のシニアレジデント制度の特色)

1. 大学病院／関連病院の優れた指導医のもとで、専門医修得に必要な多くの症例／手技を経験できる。
2. サブスペシャルティ分野につながる幅広い経験を積むことができる。
3. 大学院・社会人大学院に入学し、研修と研究の両立を目指すことができる。
4. 国内及び海外留学を積極的に勧める。
5. 希望者は、群馬大学医学部附属病院医師ワークライフ支援プログラムを利用することが可能である。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	136人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
倉林 正彦	循環器内科	教授	37年	
前野 敏孝	呼吸器・アレルギー内科	准教授	26年	
浦岡 俊夫	消化器・肝臓内科	教授	24年	
山田 正信	内分泌糖尿病内科	教授	35年	
廣村 桂樹	腎臓・リウマチ内科	准教授	29年	
半田 寛	血液内科	講師	28年	
池田 佳生	脳神経内科	教授	26年	
福田 正人	精神科神経科	教授	35年	
滝沢 琢己	小児科	准教授	23年	
佐伯 浩司	消化管外科	教授	25年	
調 憲	肝胆膵外科	教授	32年	
清水 公裕	呼吸器外科	講師	26年	
阿部 知伸	循環器外科	教授	26年	
藤井 孝明	乳腺・内分泌外科	准教授	18年	

鈴木 信	小児外科	准教授	18年	
筑田 博隆	整形外科	教授	23年	
石川 治	皮膚科	教授	39年	
鈴木 和浩	泌尿器科	教授	29年	
秋山 英雄	眼科	教授	22年	
近松 一朗	耳鼻咽喉科	教授	29年	
河村 英将	放射線科	准教授	16年	
対馬 義人	核医学科	教授	30年	
岩瀬 明	産科婦人科	教授	23年	
齋藤 繁	麻酔科蘇生科	教授	32年	
横尾 聡	歯科口腔・顎顔面外科	教授	31年	
好本 裕平	脳神経外科	教授	35年	
村上 正己	検査部	教授	36年	
徳江 豊	感染制御部	准教授	33年	
対馬 義人	放射線部	教授	30年	
齋藤 繁	集中治療部	教授	32年	
小山 徹也	病理部	教授	33年	
大嶋 清宏	救命・総合医療センター	教授	26年	
田村 遵一	救命・総合医療センター	教授	36年	
和田 直樹	リハビリテーション科	教授	23年	
中村 哲也	臨床試験部	教授	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
- がん分野における中堅看護師実務研修（群馬県内看護師対象）
平成30年 9 月10日～10月 4 日（15日間で 1 回） 19名
- 群馬県院内がん登録実務者研修会「多重がんルール」 平成31年 2 月23日 43名
- 群馬県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会研修 平成31年 3 月 6 日 38名
- 児童虐待防止講演会 平成31年 3 月27日 41名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
- 平成 3 1 年度新規採用職員研修 平成31年 4 月 1 日 231名
- 群馬県院内がん登録実務者研修会「多重がんルール」 平成31年 2 月23日 43名

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・ 研修の主な内容
- ・ 研修の期間・実施回数
- ・ 研修の参加人数
- 【全医療従事者】
- 「化学療法と看護」 平成30年 7 月12日 68名

- 「放射線治療法と看護」 平成30年9月13日 62名
- 「緩和ケア」 平成30年10月4日 74名
- 「乳がんの手術療法と手術療法の看護」 平成30年11月1日 84名

【緩和ケア研修会】

- 「厚生労働省緩和ケア研修会標準プログラムに準拠の緩和ケア研修会」

平成30年4月21日～4月22日 20名

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長：田村 遵一
管理担当者氏名	総務課長：姉崎 英広、医事課長：加藤 幸生

		保 管 場 所		管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	総務課	診療録による管理(電子媒体及び紙媒体) 診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについては、診療情報管理規程により、原則として診療記録は所持できないと定めている。例外として、診療情報管理担当者に許可を得て医学研究教育及び病院管理又は診療統計に必要な資料の作成のため、複製を所持することができる。電子媒体で診療記録の複写を所持する場合は、各自が保有する電子化された患者個人情報の保護に関する取扱いに定めている。
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	システム統合センター 薬剤部	
		手術記録	システム統合センター 医事課	
		看護記録	システム統合センター 医事課	
		検査所見記録	システム統合センター 医事課	
		エックス線写真	システム統合センター 各診療科	
		紹介状	システム統合センター 医事課	
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	システム統合センター 医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	紙媒体のファイルを保管、整理
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
		高度の医療の研修の実績	総務課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課	紙媒体のファイルを保管、整理
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課	
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課	
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課	

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	総務課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEサプライセンター 管理運営課		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEサプライセンター		

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第一項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	総務課 医事課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	総務課 医事課
		医療安全管理部門の設置状況	医事課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課
		監査委員会の設置状況	監査室（大学本部）
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課、医療の質・安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課
		職員研修の実施状況	医事課
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課
		管理者が有する権限に関する状況	総務課
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	監査室（大学本部）
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	総務部総務課 （大学本部）

（注）「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	病院長：田村 遵一		
閲覧担当者氏名	総務課長：姉崎 英広		
閲覧の求めに応じる場所	医学部附属病院		
閲覧の手続の概要			
閲覧希望者がいた場合には総務課にて対応している。			

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0 件
閲覧者別	医師	延	0 件
	歯科医師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
・ 指針の主な内容： ○ 当院における安全管理の基本的考え方：安全文化の育成 ○ 医療安全を推進するための委員会等の設置 ○ 職員に対する研修の基本方針 ○ 事故報告などの医療に関わる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ○ 事故発生時の対応に関する基本方針 ○ 情報の共有に関する基本方針（当該指針の閲覧に関する基本方針） ○ 患者相談への対応に関する基本方針 ○ その他の医療安全のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（有・無） ・ 開催状況：年12回 ・ 活動の主な内容： ○ 医療業務安全管理委員会 医療事故防止専門委員会からのインシデント報告書の分析結果等の報告を受け、分析結果や改善指摘事項等について審議するとともに、その改善事項等決定及び各診療科等への改善命令等の決定を行う。 ○ 医療事故防止専門委員会 具体的なインシデント・アクシデント報告書の内容分析を行い、改善事項等について審議し、その結果を上部委員会へ報告するとともに、決定された改善事項に関する啓発や研修のほか、医療事故防止マニュアルの改善を行う。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年45回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 医療安全職員研修 ・ 『患者安全サミット参加者による国際シンポジウム—国際社会から学ぶリーダー資質の養成—』 ・ 『患者・家族と医療者を支える医療安全活動』 ・ 『病院機能評価認定にむけたキックオフ 医療の質・安全を保証し発展させる—特定機能病院承認と病院機能評価認定にむけて—』	

- ・ 『病院機能評価の全体像・審査体系・受審準備の進め方について』
 - ・ 『聴覚障がいを持つ患者さんが喜ぶコミュニケーションとは?』
 - ・ 『アナタの常識は、ワタシの常識ではない!!—報道事例から学ぶ「医薬品使用時の安全管理+α 2018」—』
 - ・ 『ヒューマンファクターのテクニック：医療安全のために』
 - 医療安全セミナー
 - ・ 『院内発症肺塞栓による死亡をゼロにするために』
 - ・ 『裁判例から学ぶ医療事故対応』
 - ・ 『患者さんからの相談・苦情対応について』
 - ・ 『患者参画型医療をすすめるために—インフォームドコンセントとshared decision making（協働の意思決定）—』
 - CVC体制説明会『安全なCVCとCVCトレーニング』
 - 医療機器講習会
 - ・ 補助循環装置「ECMOの基礎とトラブル対応」
 - ・ 除細動装置「除細動装置の管理」
 - ・ 血液浄化装置「血液透析の基礎と装置管理」
 - ・ 人工呼吸器「人工呼吸器IPPVの基礎とトラブル対応」
 - ・ 補助循環装置「IABPの基礎とトラブル対応」
 - ・ 除細動装置「除細動装置の操作と注意点」
 - ・ 血液浄化装置「アフエレーシス療法と装置管理」
 - ・ 人工呼吸器「人工呼吸器NIPPVの基礎とトラブル対応」
 - 虐待等防止に関する研修会
 - ・ 『最近の虐待事例報告（DV、高齢者虐待等について）』
 - ・ 『高齢者虐待、障害者虐待、DV疑い症例への対応マニュアルについて』
 - ・ 『高齢者虐待防止のために』
 - CAPS講演会『子どもたちに寄り添う～子どもシェルターの活動』
 - 院内救命講習（全12回）
 - ポケットマニュアルに関するe-learning（医療職必須）
 - TeamSTEPPS研修（全6回）
- ※ これらの研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向け、研修内容を録画したDVD上映を数回、実施しており、それも受講できなかった職員には、DVD自体を個別に貸出配布

している。このように録画媒体を活用することで、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。

※ 年2回の受講が義務付けられている医療安全管理研修については、受講率は100%である。

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (☒ 有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - 各部門にリスクマネージャー82名を配置。(平成31年3月1日現在)
 - 部署、医療の質・安全管理部、各委員会において分析、対策立案を行い、実施状況を確認。院内へ向け、リスクマネージャー会議内容及び『医療安全情報』を発信している。医療の質・安全管理部及び各種委員会での検討事項を各部署にフィードバックし、日々及び定期の巡視等でその実施状況を確認している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容： ○ 病院感染対策に関する基本的な考え方 ○ 感染対策委員会及び感染制御部 ○ 職員研修 ○ 病院感染発生の状況調査並びに病院感染発生時の対応 ○ 病院感染対策マニュアル ○ 患者への情報提供と説明 ○ その他の病院感染対策の方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ○ 感染対策の実施及び指導 ○ 感染対策に関する必要事項の検討 ○ 感染症の情報収集、整理、解析及び対策 ○ 感染症の解析結果の迅速な情報提供 ○ 感染症の継続的観察及び対策実施後の評価 ○ 感染症に関する啓発、講習、教育 ○ 感染防止のためのガイドライン及びマニュアルの整備	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年10回
・ 研修の内容（すべて）： ○ 感染対策研修 ・ 『感染対策の基本』 ・ 『抗菌薬適正使用について』 ・ 『群馬県感染対策連絡協議会の活動と外来における抗微生物薬適正使用について』 ・ 『抗菌薬適正使用について』 ・ 『医療関連感染サーベイランスについて』 ○ e-learningの実施 ※ これらの研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向け、研修内容を録画したDVD上映を数回、実施しており、それも受講できなかった職員には、DVD自体を個別に貸出配布	

している。このように録画媒体を活用することで、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。

※ 医療安全管理研修と同様に、院内感染対策研修の受講率も100%である。

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備
 - ・ その他の改善のための方策の主な内容：
- (有 無)

- 毎週感染制御部ミーティングで各部署の感染症の発生状況を確認し、感染対策および感染症治療の内容を検討し、問題点がある場合は現場へICT巡視およびAST巡視を通じてフィードバックしている。
- 毎月テーマを決めて感染対策委員会巡視として院内の環境等の視察を行い、評価及び改善指導を行っている。
- 4職種で構成されたICTメンバーによる院内ラウンドを毎週行い患者毎の感染対策の遵守状況を確認している。
- 抗菌薬適正使用支援として、感染症治療に関するコンサルテーション、血液培養陽性者および広域抗菌薬使用患者のスクリーニングを毎日行っているほか、毎週ASTラウンドを行ない抗菌薬適正使用の推進を図っている。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年5回
- 研修の主な内容： ○ 新入職者全員を対象にした医薬品の取扱いについての講義を行っている。 ○ 新任の全医療職者を対象にした「麻薬の取扱い」の講義を行っている。 ○ 看護部開催の新人看護師を対象にした「静脈注射研修会」の講義(注射薬(ハイリスク薬)の取扱い等)を行っている。 ○ 各病棟担当薬剤師が、各病棟スタッフの要望により医薬品に関する講義を随時行っている。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
- 手順書の作成 (有)・無 - 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」を平成30年12月28日付で発出された「医薬品の安全使用のための業務手順書作成マニュアルの改訂について」に基づき見直し(改訂準備)を行った(2019年5月に改訂)。 ○ 「医薬品の安全使用の業務手順書」に基づいた業務の実施状況について、チェックリストにより毎月確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
- 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無 - 未承認等の医薬品の具体的な使用事例(あれば)： ○ 十二指腸がんに対するゼローダ+オキサリプラチン療法の実施 ○ サイトメガロウイルス再活性化を伴う潰瘍性大腸炎・蛋白漏出性胃腸炎に対するバルガンシクロビルの使用 - その他の改善のための方策の主な内容： ○ 処方箋の疑義照会による情報把握 ○ 医薬品医療機器総合機構からのメール受信(PMDAメディナビ) ○ 製薬企業のMRからの情報収集 ○ 病棟担当薬剤師からの情報提供 ○ 臨床倫理委員会専門委員会で承認された未承認薬や適応外の医薬品の使用状況を確認し、把握している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年12回 (ME機器等) 年18回 (放射線機器)
・ 研修の主な内容： ○ ME機器については、装置の有効性及び安全性及び操作方法、トラブル対応、保守点検有無について受講者に対し説明を実施している。 ○ リニアックおよびマイクロセレクトロンなどの放射線機器については、装置の有効性、使用方法、保守点検、不具合対応、法令遵守等の項目について、定期的に部門主任が部門の診療放射線技師、看護師を対象に実施した。また、ローテーションで新たに配属された診療放射線技師にも新規者向け研修を実施した。重粒子部門では、学会、セミナー参加をもって研修に充てた。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ○ 外装、各警報動作確認及び精度確認等を実施。輸液ポンプ、シリンジポンプ、除細動装置、下肢圧迫装置、経腸栄養ポンプ、電気メス、体温管理装置、内視鏡装置等は、院内で臨床工学技士が保守点検を実施。 ○ 人工心肺装置、補助循環装置、血液浄化装置、閉鎖式保育器、人工呼吸器、手術台、麻酔器、ダヴィンチ、ナビゲーション装置等はメーカーが保守点検を実施。 ○ リニアック、マイクロセレクトロン、重粒子線治療装置は保守契約を結び保守点検を実施。他の放射線機器についても保守契約、スポット点検にて保守を実施しており、契約を結ばない装置については自主点検を実施した。 ○ 隔月で開催されているME機器等管理・運用委員会にて、保守点検状況を報告している。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例 (あれば)： ○ PMDAからの情報及びメーカーからの案内を元に、医療機器等の改修案内等はME機器等管理・運用委員会にて医療機器安全管理責任者に報告している。	

・ その他の改善のための方策の主な内容：

- 緩徐式持続血液濾過透析装置のインシデント事例をPMDAへ報告。
- 輸液ポンプの操作によるインシデントから、全病棟対象にポンプの操作方法の説明会を実施。
- メーカーなどからの機器に係る安全情報や保守期間終了情報についてはME機器等管理・運用委員会にて、保守点検状況を報告。
- 老朽化した放射線機器について、各メーカーからの情報提供および提案を促し、機器更新に繋げた。
- 未承認等の医療機器を使用する際又は医療機器の適応外使用する際は、担当医が先端医療開発センターの担当窓口に申請し、同センターから臨床倫理委員会専門委員会に諮って審議し、その結果に基づき同センターが使用について決定した後に医療機器安全管理責任者に報告している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
- 責任者の資格（医師・歯科医師） - 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ○ 副病院長を医療安全管理責任者に選任し、医療業務安全管理委員会において下記部門及び責任者から医療安全に関する報告を行わせ、状況を確認している。 医療安全管理部門 ＝医療の質安全管理部 医療安全管理委員会 ＝医療業務安全管理委員会 医薬品安全管理責任者 ＝薬剤部長 医療機器安全管理責任者＝病院長補佐（材料・薬品担当）	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（5名）・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 - 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 ○ 医薬品安全管理責任者の指示により、薬剤部 DI センター担当者(DI センター主任)が担当している。採用されている医薬品について、医薬品添付文書情報の確認、医薬品医療機器総合機構からのメール受信、医薬品製造販売業者や行政機関、学術雑誌からの情報収集を行い管理している。また情報収集した内容で周知が必要と思われる情報については、処方医や診療科への書面の周知の他、全職員へのメール送信や毎月発行している DI ニュースで院内職員に周知している。 - 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 ○ 薬剤部 DI センター担当者(DI センター主任)が未承認薬使用に関して使用状況を把握している。その際に薬剤師 GRM や、薬剤部から出席している臨床倫理専門委員会委員からも情報を収集している。 未承認新規医薬品等の使用については、院内に設置されている先端医療開発センターへ申請を行い、必要に応じて臨床倫理委員会専門委員会で使用の可否を決定している。 - 担当者の指名の有無 有・無 - 担当者の所属・職種：(所属：薬剤部、職種 薬剤師 (DI センター主任))	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ○ 「群馬大学医学部附属病院医療行為等の説明及び同意の取得に関する規程」 ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ○ 医療行為等の説明に関する責任者の指定（医療の質・安全管理部長）、説明書による説明及び同意書の取得が必要な医療行為等の明示、説明内容、人権及び自己決定権の尊重、同席者について。 ○ その他「インフォームド・コンセントに関する指針」において、看護師の同席や役割、カルテ等への記録方法も含め、具体的に明示している。 ○ 侵襲的医療行為に関する説明同意文書については、必要な事項を網羅した書式及び形式を整えた「雛型」を各診療科等に明示し、これを基に各診療科等で作成した説明同意文書を臨床倫理委員会専門委員会で承認する体制を構築した。	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ○ 診療情報管理部にて「診療録記載ガイドライン」を策定し、院内に周知している。 ○ カルテについて、次のとおりレビューを行っている。 1. 各診療科、部門等の医師による入院カルテピアレビュー（年2回実施） 2. 診療情報管理士による全科入院カルテレビュー（改善策提案等のフィードバックを実施） 3. 医療の質・安全管理部によるインシデント報告等に対応するカルテレビュー 4. 死亡症例検証委員会による全死亡症例のカルテレビュー 5. 外科診療センター内での独自カルテピアレビュー（年4回実施）	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（6）名、専任（1）名、兼任（ ）名 うち医師：専従（3）名、専任（1）名、兼任（ ）名 ※専従3名のうち1名は、医療安全に関する用務のため、WHOに長期出張中 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容：	

- 医療の質・安全の向上に関すること全般
- 医療業務安全管理委員会、事故防止専門委員会、事故調査専門委員会及びリスクマネージャー会議の審議事項に係る助言並びに当該会議等の資料・議事録の作成及び保存等
- 医療事故発生時の即時対応並びに事故調査専門委員会開催の判断
- 事故等に関する診療録・看護記録等への正確かつ十分な記載についての確認・指導
- 患者・家族への説明及び事故発生時の対応状況についての確認・指導
- 事故等の原因究明の適切な実施についての確認・指導
- インシデント及びアクシデント報告書の管理及び即時調査・分析
- ゼネラルリスクマネージャーの育成
- 医療安全に係る連絡調整並びに医療安全対策の推進

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（11 件）、及び許可件数（8 件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
 - 「先端医療開発センター」を平成 29 年 4 月より設置した。
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院高難度新規医療技術取扱要領」
- ・ 活動の主な内容：
 - 高難度新規医療技術の使用の決定、実施の支援及びモニタリング、先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
 - 先述した先端医療開発センターのサーベイヤーが、センターが決定した医療行為等の調査を行う時に併せて確認している。
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会専門委員会」で対応。

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（0件）、及び許可件数（0件）
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無
（☒有・無）
 - 「先端医療開発センター」を平成29年4月より設置した。
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院未承認新規医薬品等取扱要領」
 - 「群馬大学医学部附属病院未承認新規医療機器取扱要領」
- ・ 活動の主な内容：
 - 未承認新規医薬品等の使用（保険適用外使用も含む）の決定、実施の支援及びモニタリング、先端医療・新規医療技術の提供に関わる研修・教育の企画等。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員会」及び「群馬大学医学部附属病院臨床倫理委員専門委員会」で対応。

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年427件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の実態及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年400件（レベル3b以上）
- ・ 上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - 死亡事例は全て即時に医療の質・安全管理部に報告させ、医療業務安全管理委員会に報告するよう徹底している。
 - 上記に加えて死亡症例検証委員会で全死亡症例を詳細かつ効果的に検証している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・ 他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：京都大学医学部附属病院）・無）
- ・ 他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：横浜市立大学病院）・無）
- ・ 技術的助言の実施状況

○ 平成 30 年度、当院は特定機能病院ではないが、立入時には他の特定機能病院の支援を受け次のとおり実施した。

平成 30 年 11 月 横浜市立大学病院の立入り受入れ

平成 30 年 12 月 京都大学医学部附属病院への立入り（横浜市立大学病院との共同訪問）

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・ 体制の確保状況

○ 「群馬大学医学部附属病院医療安全管理指針」（平成 29 年 1 月 24 日改訂・施行：医療安全管理委員会）の「7）患者相談への対応に関する基本方針」に記載するとおり、医事課、医療の質・安全管理部及び患者支援センターの各部署が連携して対応している。患者相談の一次対応の組織としては、「群馬大学医学部附属病院患者相談窓口設置要項」（平成 31 年 2 月 4 日制定）により、患者支援センター長を責任者とし、医師、看護師、事務職員及びソーシャルワーカーからなる患者相談窓口を設置。相談内容により各部署に振り分け対応している。そのためフローを整備しているほか、相談内容とその対応についての検討を行うカンファレンスを原則週 1 回実施している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

○ 病院の新規採用職員研修において、医療安全の基本について、医療の質・安全管理部長が講話を実施している。

○ 年 2 回の受講が義務づけられている医療安全・感染対策職員研修に加え、最近のトピックや改革関連をテーマにした安全セミナーを開催している。また、医療事故防止ポケットマニュアルの習熟度を確保する研修を e-learning 形式で、医療職必須の研修として実施している。

○ 各研修は、一部を除き、開催日に出席できなかった職員に向けて、研修内容を録画した DVD 上映を、数回実施しており、それも受講できなかった職員には、DVD 自体を個別に貸出配布している。録画媒体を活用することで、年間を通して随時研修を受けられるような体制を整備している。

○ 平成 30 年 6 月 18 日から 22 日にかけて「医療安全週間」を実施し、その中で、他施設で医療事故を経験したご遺族の講演会を医療安全職員研修として実施した。また、医療安全週間中は、各部門から活動紹介のポスター展示や医療安全に関する標語の掲示を行った。

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

○ 平成 30 年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）

平成 31 年 2 月 6 日 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準

・ 基準の主な内容

1. 医師免許を有している者
2. 医療安全確保のために必要な資質・能力を有している者
具体的には医療安全管理業務の経験、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力等
3. 病院の管理運営に必要な資質・能力を有している者
具体的には、当院または当院以外の病院での組織管理経験、高度な医療を司る特定機能病院の管理運営上必要な資質・能力等
4. 先般の一連の医療事故を踏まえ、現在、実行中の改善・改革を推進するとともに、評価・効率化・改良等も加えながら実行する姿勢と指導力を有している者
5. 当院に求められる使命を遂行するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、大学の附属病院としての使命である、診療・教育・研究の充実等はもとより、大学の中期目標における「附属病院に関する目標」の項に掲げた次の事項について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等
 - ① 医療安全管理体制の改革を行う。また、患者の権利に配慮し、患者の目線に立った、患者中心の医療を行う。
 - ② 高度急性期病院の体制と機能を強化し、超高齢社会の医療の中核を担う。
 - ③ 地域医療及び先端医療への社会の要請に応えられる未来を担う医療人を育成する。
 - ④ 未承認医療機器や保険未収載医療機器等の臨床試験を推進し、地域社会、国際社会に貢献する。
6. 群馬県の中核病院として、地域医療に貢献するために必要な資質・能力を有している者
具体的には、群馬県や群馬県医師会等とも連携し、地域の中核病院として県域全体の医療に貢献すること等について、継続的かつ確実に推進する姿勢と指導力等

・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 公表の方法

大学ホームページに掲載

<http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho>

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無				有 無
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 無) ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 無) ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 無) ・ 公表の方法 大学ホームページに掲載 http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouincho				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関 係
栗山 雅秀	群馬大学理事 (総務・財務担当)		医学部附属病院長候補者選考会議 細則第3条第1号に基づく学長が 指名する理事	有 無
石崎 泰樹	群馬大学大学院医 学系研究科長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第2号に基づく役 職指定	有 無
塚越 聖子	群馬大学医学部附 属病院看護部長		医学部附属病院長候補者選考会 議細則第3条第3号に基づき医 学部附属病院から選出	有 無
北島 政樹	学校法人国際医療 福祉大学副理事長 ・国際医療福祉大 学名誉学長		慶應義塾大学病院長、慶應義塾大 学医学部長、国際医療福祉大学学 長を歴任されるなど、医学・医療 について豊富な経験と高い識見 を有している	有 無
山口 育子	認定NPO法人さ さえあい医療人権 センター COML理事長		医学部附属病院改革委員会委員 として、本院の医療事故や改革に ついてご理解いただいている。ま た、厚生労働省の大学附属病院等 のガバナンスに関する検討会の 構成員を務められるなど医療安 全に対する高い識見を有してい る	有 無
高木 賢	公立大学法人高崎 経済大学理事長		国の行政、弁護士活動、大学運営 を通じて、幅広く豊富な経験と高 い識見を有し、群馬県の経済事情 や課題等にも精通している	有 無
塚越 日出夫	群馬県社会福祉事 業団理事長		群馬県健康福祉部長を歴任され るなど、群馬県の保健・医療・福 祉全般に豊富な知見を有してい る	有 無

**規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況**

合議体の設置の有無	(有)・無		
・合議体の主要な審議内容 ○ 群馬大学医学部附属病院規程において、「病院運営会議」を「管理運営に関する重要事項を審議するため」の機関と位置づけている。 ○ 病院運営会議の審議事項は、「群馬大学医学部附属病院運営会議規程」に規定され、病院の医療提供機能、教育研修機能及び研究開発機能を達するための基本的計画に関する重要事項について審議するほか、次の各号に掲げる事項について審議する。 (1) 予算及び決算に関すること。 (2) 人員配置に関すること（事務職員を除く。）。 (3) 施設の設置及び廃止に関すること。 (4) その他病院の管理運営に関する重要事項 ・審議の概要の従業者への周知状況 ○ 円滑な病院運営に資するため、診療科長や部門長等で組織する「臨床主任会議」において、病院運営会議の審議及び報告事項を周知している。また、病院の管理運営について必要な意見を聴くため、各診療科等から選出された中堅層の職位で組織する「病院連絡会議」において、同様に周知するとともに、各診療科等においては、内容をカンファレンス等で広くスタッフに周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（ (有)・無 ） ○ 群馬大学医学部附属病院運営会議規程 ・公表の方法 ○ 本学ホームページ（病院）において掲載 http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056 ・外部有識者からの意見聴取の有無（ (有)・無 ） ○ 病院運営会議に外部有識者として参画している群馬県病院協会長から、その都度意見聴取を行い、俯瞰的視点からの意見等を管理及び運営に活かしている。			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
田村 遵一	○	医師	病院長
齋藤 繁		医師	副病院長（医療安全担当）
塚越 聖子		看護師	副病院長（看護・療養環境担当）
村上 正巳		医師	特命副病院長（地域連携担当） 病院長補佐（地域連携担当）
小松 康宏		医師	特命副病院長（病院機能評価担当） 医療の質・安全管理部長

鈴木 和浩		医師	病院長補佐（保険診療担当）
大嶋 清宏		医師	病院長補佐（卒後研修・教育・防災担当）
対馬 義人		医師	病院長補佐（院内環境・労務担当）
調 憲		医師	病院長補佐（材料・薬品担当）
池田 佳生		医師	病院長補佐（広報担当）
西條 英吾		事務職員	病院長補佐（財務・管理担当）
山本 康次郎		薬剤師	特命病院長補佐（薬事）
横尾 聡		歯科医師	特命病院長補佐（歯科医療）
長谷川 信		技術職員	リハビリテーション部主任療法士
田島 行雄		技術職員	ME サプライセンター主任臨床工学技士
西松 輝高			病院顧問（群馬県病院協会会長）

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
 - 「群馬大学医学部附属病院規程」
- ・ 公表の方法
 - 本学ホームページ（病院）において掲載
http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056
- ・ 規程の主な内容
 - 病院の目的、病院長の業務、病院長を補佐する各幹部職員の業務、病院運営会議ら各種会議体の役割、病院に設置される診療科・診療施設等
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
 - 副病院長…病院長の職務を補佐し、病院長不在の時はその職務を代行する。医療安全管理責任者としての役割も負う。
 - 病院長補佐…病院長が指示する管理運営等に関する個別具体的事項について、企画・立案及び連絡調整等を行う。
 - 病院顧問…病院の診療及び経営に関する諸課題や重要事項について、助言を行う。
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
 - 平成30年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）に病院長補佐1名が参加。
 - 平成31年2月9日開催の「病院長塾」（国立大学附属病院長会議主催）に病院長、副病院長2名、病院長補佐1名、副看護部長1名が参加。

**規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する
状況**

監査委員会の設置状況	☒ 有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 3 回 ※平成 30 年度実績 ・ 活動の主な内容： <平成 30 年度第 1 回病院監査委員会 平成 30 年 5 月 22 日> (議事内容) ① 平成 29 年度監査報告書 <平成 30 年度第 2 回病院監査委員会 平成 30 年 10 月 4 日> (議事内容) ① 前回委員会以降の附属病院の経過 ② 改善事項の説明 ③ 病院内視察 ④ 病院の医療安全関連事項の報告 ⑤ 医療安全に係る管理体制及び業務状況等の報告 <平成 30 年度第 3 回病院監査委員会 平成 31 年 3 月 11 日> (議事内容) ① 前回委員会以降の附属病院の経過 ② 医療安全関連事項等の報告 ③ 医療安全に係る管理体制及び業務状況等の報告 ④ 平成 30 年度監査報告 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (☒有・無) ・ 委員名簿の公表の有無 (☒有・無) ・ 委員の選定理由の公表の有無 (☒有・無) ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (☒有・無) ・ 公表の方法： ☐ 本学ホームページにおいて掲載 http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/byouinkansa	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
天野 慎介	全国がん患者 団体連合会理 事長 一般社団法人 グループ・ネク サス・ジャパン 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2
岡崎 浩巳	地方公務員共 済組合連合会 理事長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2
神谷 恵子	神谷法律事務 所 弁護士		法律に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
児玉 安司	新星綜合法律 事務所 弁護士/医師		医療に係る安全 管理に関する識 見及び法律に関 する識見を有す る者	有・ ☒ 無	1
須藤 英仁	群馬県医師会 長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
谷 修一	国際医療福祉 大学名誉学長		医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
堀田 知光	国立研究開発 法人がん研究 センター名誉 総長	○	医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者	有・ ☒ 無	1
吉田 慎一	株式会社テレ ビ朝日ホール ディングス代 表取締役社長		医療従事者以外 の者で医療を受 ける立場から意 見を述べること ができる者	有・ ☒ 無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・ 体制の整備状況及び活動内容

- 病院長が行う病院運営が法令に適合することを確保するため、監査室（大学本部）が学長の命により行う内部監査で、法令の遵守状況を踏まえた病院運営の取組みに対する有効性を検証し、適時に見直しを行う。

・ 専門部署の設置の有無（☒有・無）

- 群馬大学監査室

・ 内部規程の整備の有無（☒有・無）

- 「群馬大学内部監査規程」

・ 内部規程の公表の有無（☒有・無）

・ 公表の方法

- 本学ホームページにおいて掲載

http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056

規則第15条の4第1項第3号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 ○ 役員会では、定期的に病院の収支状況報告を行うとともに、病院の管理運営状況を報告し、役員による監督を実施している。 ○ また、病院監査の視点から、監事が病院長巡視及び医療業務安全管理委員会に毎回出席し、医療現場の視察、スタッフからの生の意見の聞き取り及び医療事故と再発防止策の確認並びに医療安全の確認等を実施している。 ・ 会議体の実施状況（年47回）※役員会（連絡会を除く）の平成30年度開催実績 ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒・無）（年42回）※平成30年度実績 ○ 病院長は病院担当理事に任命されており、役員会の構成員となっている。 ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒・無） ○ 「国立大学法人役員会規則」 「国立大学法人理事に関する申合せ」 ・ 公表の方法 ○ 本学ホームページにおいて掲載 http://www.gunma-u.ac.jp/outline/out008/g30123/g30125 http://hospital.med.gunma-u.ac.jp/?page_id=6056			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無
			有・無
			有・無
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況

・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（☒有・無）

- 職員用のご意見箱や電子掲示板等、多様な内部通報方法を構築している。

・通報件数（年3件）

- 平成30年度実績（職員用のご意見箱から3件）

・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無（☒有・無）

- 「群馬大学医学部附属病院内部通報要項」を定め、公益通報の所管を危機管理室とし、通報の授受は秘密の保持に配慮しつつ、メール、電話、FAXによる専用の窓口を設けるとともに、外部機関を経由した匿名の通報を受け入れる窓口（内部通報ホットライン）を設置している。

また、通常の内部通報ホットラインとは別に、学外の弁護士が窓口となる病院における診療に関する内部通報ホットラインを設置している。

・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（☒有・無）

・周知の方法

- 臨床主任会議、病院連絡会議等で周知した。さらに、内部通報ホットラインについては、名刺サイズの周知のためのカードを作成し、全教職員に配布している。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
- 評価を行った機関名、評価を受けた時期 ○ 日本医療機能評価機構による病院機能評価 (認定期間：平成26年1月26日～平成31年1月25日) ※ ※ 平成26年12月26日 腹腔鏡下肝切除術8症例について、機構に医療事故報告書を提出 平成29年5月16日「条件付認定」(認定期間：平成26年5月26日～平成29年8月31日) 平成29年11月15日 確認審査の結果、「認定(条件付解除)」 (認定期間：平成26年1月26日～平成31年1月25日) ○ 日本医療機能評価機構による病院機能評価受審 訪問審査 令和元年5月15日(水)～17日(金)	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
- 情報発信の方法、内容等の概要 ○ 本院ホームページ等において、病院の理念、基本方針等を始め、各診療科の医療技術や部門等の取組等について紹介している。 ○ 「群大病院だより」を年2回(9月と2月)発行し、病院内で自由配布すると共に、近隣病院に発送している。 ○ 病院規程等、病院の主要規程を病院ホームページで公表している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
- 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ○ 外科診療センター、内科診療センターを設置し、外科及び内科それぞれの臓器別診療科を統括している。センターでは、臓器別診療科毎のカンファレンスに加え、多職種による	

センター全体の合同カンファレンスを実施するとともに、問題事例に関しては、合併症・死亡症例カンファレンスを開催している。

- 各種がんの治療方針等について、診療科等の枠を超えた多職種で検討するカンサーボード体制を整備。カンサーボード指針に従い、担当する診療科のみならず、関連する診療科の医師、薬剤師、看護師等の多職種が参加する。
- 先端医療開発センターでは、各診療科、部門等から推薦された多職種のサーベイヤーが連携し、センターで指定した各医療行為の実施状況調査・確認を行う「モニタリングサーベイヤー制度」を整えた。この制度は、医療者の意識や風土文化の改革も目的としており、各診療科間の相互チェックを兼ねる位置付けとしている。

(様式第 8)

群大医総 2 第 6 3 号
令和元年 1 0 月 3 日

厚生労働大臣 加藤 勝信 殿

開設者名 国立大学
学 長 平塚 浩

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

- 2019 年度特定機能病院管理者研修（日本医療機能評価機構実施）
2019 年 10 月 27 日～28 日 ME サプライセーター長（医療機器安全管理責任者）
2019 年 12 月 16 日 薬剤部長（医薬品安全管理責任者）
2020 年 2 月 12 日 病院長（管理者）及び副病院長（医療安全管理責任者）

2. 医療安全管理部門の人員体制

--

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

--